

令和2年度

事業報告書



社会福祉法人 東近江市社会福祉協議会

目次

序文	-1-
事業内容	
目標① “お互いさん” の地域づくり ～やさしく ひろがる そっと見守り～	-2-
目標② 気兼ねなく「助けて」と言えるしくみづくり ～「ようきいて」「よう言うて」「おおきにな」～	-11-
目標③ 一人ひとりの良さに気づくことから始める人づくり ～高めあい 育ちあい 和気あいあい～ ...	-31-
目標④ みんなが輝く場や機会づくり ～『得意』『好き』を持ち寄って 東近江 115,000 笑ット～ ...	-33-
目標⑤ 東近江の魅力を再発見と誇りづくり ～やっぱりええやん 東近江～	-42-
目標⑥ 地域活動を支えるためのサポート ～とことん14地区にこだわり、地域づくりをすすめます！～ ...	-44-
基盤強化計画	-53-

令和2年度 東近江市社会福祉協議会事業報告

つながりと地域愛でつくる ①ふだんの ②くらしの ③しあわせ

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に始まり、年間を通じてコロナ禍との闘いの年でありました。

本年も、本会の目標である誰もが安心して暮らせる地域福祉の推進に取り組むことを基本方針として、「第2次地域福祉活動計画」に掲げる6つの目標達成のため各事業を実施してまいりましたが、コロナの影響により本来の事業の姿で事業展開が出来ませんでした。

まず、一番大きな影響は、能登川保健センターなごみの発熱外来開始に伴い、デイサービスセンターなごみの廃止、それに加え能登川事務所とヘルパーステーションなごみの移転、また3月末からコロナによる生活困窮者支援である特例貸付等待ったなしの対応を行ってまいりました。

各事業についても、介護事業をはじめ、サマーホリデー事業や学習支援、サロン等感染拡大を最大限考慮し、利用者にも出来るだけ不便のかからないよう、また地域において孤独・孤立者が出ないように地域福祉に細心の注意を払い、創意・工夫をしながら実施してまいりました。

また、引き続き厳しい財政状況改善のため、介護事業、会費・共同募金の検討委員会の答申を踏まえた改善に取り組み、特に介護事業については3箇年計画を作成し、常に経営状況を把握する中で改革を進めて参りました

さらに、この厳しい状況を本会全体の課題ととらえ、各職場全職員で取り組む業務改善運動「楽リンピック」をはじめ、今までの慣習にとらわれない、組織横断的な検討、全ての職員が自分の課題として考え、職員一丸となって改善に取り組む組織づくりを進めてまいりました。

今後も地域住民に最も身近で、信頼される組織としての自覚と責任を持ち、健全経営を目指し、市民の皆様とともに、本市に住む全ての人々のが、“共に生き、安心して暮らせる福祉のまちづくり”が実現できますよう、市民の皆様にしっかり寄り添い安心して生き生きと暮らせる社会づくりに努めてまいります。

【事業内容】

目標① “お互いさん”の地域づくり

～やさしく ひろがる そっと見守り～

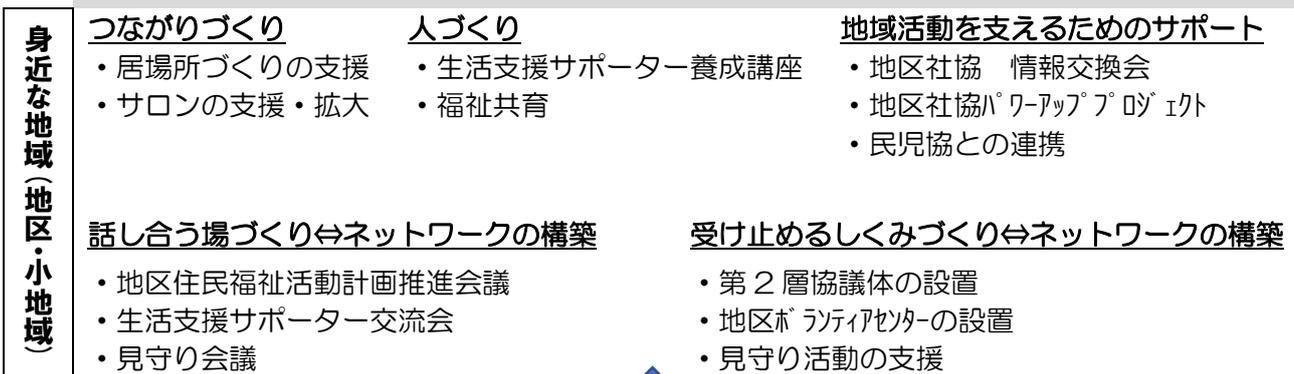
1. 包括的支援体制構築事業(共助の基盤づくり事業)＜地域福祉課＞

年齢や性別、置かれている環境などに関わらず、誰もが安心してくらすよう、地域住民による支え合いの取り組みを活性化し、地域全体で支え合う地域の基盤づくりを進めました。また、各地区において、誰もが役割を持ち、孤立しない「地域共生社会」の実現に向け、住民同士が話し合う場の開催（見守り会議、生活支援サポーター懇談会、交流会など）や地区ボランティアセンター設置への働きかけを行いました。市全体では、住民が地域福祉活動への関心を高め、地域課題を把握し、具体的な行動を起こすきっかけとなる講座や研修会を開催しました。（生活支援サポーター交流会、ボランティア推進を考える会など）

【成果】

これまで、地区担当ワーカーの継続的な働きかけにより、地域の中で話し合う場が生まれ、住民主体の地域活動が生まれてきています。

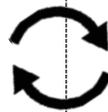
誰にも役割があり、孤立しない「地域共生のまちづくり」



地区担当ワーカーの配置:地域の特性に応じた地域づくりを住民とともに進める

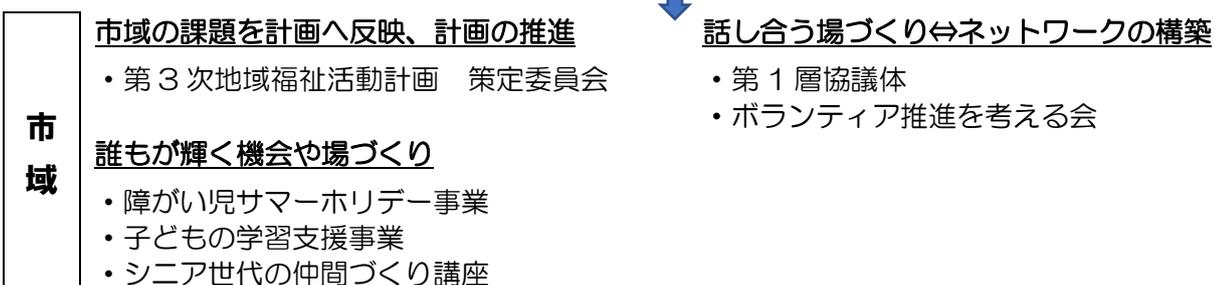
つながりをつくる: 地域支援

- 地域活動の運営支援
- 新たな活動の立ち上げ支援
- 住民や専門職のネットワーク構築
- 課題を抱えた方を地域で支える仕組みづくり



くらしをまもる: 個別支援

- 住民からの相談を受け止める
- 専門職、専門機関につなぐ
- 既存のサービスの紹介
- 地域の取り組みにつなぐ



2. 見守り活動の推進、支援<総務課・地域福祉課>

住民同士が互いに気にかけて合う地域づくりを目指し、さまざまな見守り活動を推進しました。

ひとり暮らしの高齢者など見守りが必要な方への安否確認、困りごとの相談につながりました。

- ・安否確認などの見守り訪問活動の支援を行いました。

実施地区	11地区
対象者	995名
実施回数	121回
延べ人数	10,625名

【評価と課題】

新型コロナウイルス感染症の影響で、訪問活動を休止された地区もあったことから、実施回数は昨年度よりも少なくなりました。感染対策を講じ、活動内容を変更するなど、各地区での柔軟な対応により見守り活動が継続されました。

3. 見守り会議の開催・参加<総務課・地域福祉課・在宅福祉課>

支援が必要な人が地域で安心して暮らしていけるよう、自治会など顔の見える単位で、困りごとを抱えた人のことや地域で気になることを話し合う機会づくりを行いました。

住民が自分たちの暮らす地域の状況や支援が必要な人のことを知り、地域でできることを考え、できないことは医療や福祉の専門職へ相談するなど、支援がつながるしくみづくりに取り組みました。

地区名	活動名	ワーカーの関り・内容
市辺	認知症の人への見守り、声かけ訓練、勉強会	事業・運営相談対応、参加協力
御園	神田町見守り会議	事業・運営相談対応
愛東	北坂町福祉委員会	事業・運営相談対応
五個荘	認知症行方不明者早期発見・保護訓練 ごかしょう安心サポート委員会	事業・運営相談対応、当日参加協力
	五個荘川並支え合い会議	事業・運営相談対応
	五個荘山本福祉委員会	事業・運営相談対応、
	五個荘竜田町「支え合いマップ」作成会議	事業・運営相談対応、支え合いマップ説明
能登川	桜ヶ丘福祉の会	事業・運営相談対応、当日参加協力
	能登川栄町自治会	見守り活動組織の立ち上げ相談
蒲生	桜川西掘り所おぶさ見守り会議	事業・運営相談対応
	大塚町見守り会議	事業・運営相談対応、支え合いマップ説明

4. 『ひがしおうみし地域福祉フォーラム』の開催＜地域福祉課＞

東近江市で暮らす誰もが支え支えられ、生きがいを持って心豊かに暮らせる地域、気になる人や暮らしの困りごとに気づいた人が「ほっとけへん！」と一歩踏み出せる“おせっかい”な地域づくりを進めることを目的に開催しました。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、社会福祉大会において規模を縮小して実施しました。

◎ひがしおうみし地域福祉フォーラム

日 時：令和2年10月17日（土）10:00～

場 所：東近江市立蒲生コミュニティセンター

参加者：約100名

◇「集いいね」感謝状贈呈

《目的》

- ・集うことの意義や魅力、その大切さを発信。
- ・コロナ禍においても、今までからのつながりを大切に、できるカタチでつながる方法を考えるきっかけとしました。

《内容》

- ・社会福祉大会にて、「集いいね」の趣旨説明を行い、令和2年度に新たに応募のあった集いの場へ、感謝状を贈呈。

◇「コロナに負けない！見守り・支え合いのカタチ」を伝える映像発信

《目的》

- ・コロナ禍においても、普段からのつながり切らないことの大切さや、コロナと上手く付き合いながら活動されている事例を紹介し、地域活動の後押しとなるよう作成しました。
- ・暮らしの中にある集いの場や、ちょっとした声かけ、助け合いが見守りや支え合いにつながることを伝え、つどいの場が広がるきっかけとしました。

《内容》

- ・「コロナに負けない！見守り・支え合いのカタチ」の映像作成。
- ・社会福祉大会での上映や、市社協のホームページへの掲載。映像の2次元コードを載せたチラシの発行。



つながりを切らないための映像の上映



「集いいね」感謝状贈呈

【成果】

- ・「コロナに負けない！見守り・支え合いのカタチ」の映像を通じて、コロナ禍でもつながりを切らないことの大切さや、具体的な事例を発信し、今できるやり方で、つながる方法を考えるきっかけとなりました。

5. 生活支援サポーターの養成と住民による生活支援活動の支援

<地域福祉課>

◇生活支援サポーター養成講座の開催

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、開催を中止。

◇生活支援サポーターの活動支援

(専門職や関係機関等とのつながりや調整、サポーター懇談会への参加など)

地 区	グループ名	定例会等	ワーカーの関り・内容
平田	チョイサポ平田	毎月 1回	事業・運営相談対応 関係機関等調整、会議サポート
御園	ちょこっとサポートみその		事業・運営・視察受入れ相談対応 関係機関等調整、会議サポート
中野	たすけあい中野		事業・運営・視察受入れ相談対応 関係機関等調整、会議サポート
八日市	あなたの応援隊ようかいち		事業・運営相談対応 関係機関等調整、会議サポート
永源寺	生活支援サポーター 絆		事業・運営・視察受入れ相談対応 関係機関等調整、会議サポート 助成金相談対応
五個荘	ほっとハート五個荘	2ヶ月に 1回	事業・運営・視察受入れ相談対応 関係機関等調整、会議サポート
湖東	生活支援ボランティア 湖東おたすけ隊		事業・運営・視察受入れ相談対応 関係機関等調整、会議サポート
能登川	ちょこっとサポートのとがわ	毎月 1回	事業・運営・視察受入れ相談対応 関係機関等調整、会議サポート 関係機関等調整、会議サポート
蒲生	生活支援サポーター コスモスの会	2ヶ月に 1回	事業・運営相談対応、関係機関等調整 会議サポート
	WE love 石塔グループ	随時	事業相談対応
	生活支援サポーター人材バン ク おたがいさん蒲生	毎月 1回	事業・運営相談対応、視察受入れ対応 関係機関等調整、会議サポート

◇生活支援サポーター養成講座後の活動立ち上げ支援

受講をきっかけに、自分たちの暮らす地域でできることなどを考える場をつくり、支え合いや見守り活動につながるよう働きかけました。

地 区	開催 状況	懇談の様子・地区での動きなど
平 田	隔月	平田地区の住民を対象に、「生活支援サポーター チョイサポ平田」の説明会を開催し、活動を周知すると共にメンバーの募集を行った。また、プレ活動をスタートした。
玉 緒	不定期	懇談会のメンバーが、「地区住民福祉活動計画推進会議」のメンバーであるため、推進会議において、困りごとが相談できる場、人材が活躍できる機会づくりについて、検討していくことになった。
八日市	2ヶ月 に1回	令和2年度より継続して、具体的にサポーターグループの立ち上げに向けての話し合いを重ね、8月にグループが立ち上がった。

南 部	毎月 1回	懇談会を継続して開催し、様々なアイデアを出し合うことはできたが、具体的な活動にしていくには、参加者が減り体制的に難しくなった。今後は、懇談会で出た意見やアイデアを、住民福祉活動計画のワーキング会議に持ち掛け、検討の継続を働きかける。懇談会への参加者が、ワーキング会議に参加されるよう呼びかける。
-----	----------	---

◇生活支援サポーター交流会

市内で活動される7つの生活支援サポーターグループ同士の交流・情報交換の機会として開催しました。

日時	内容	参加人数
令和2年7月31日(金) 13:30~15:00	○交流・意見交換 ・コロナ禍における活動状況 ・コロナ禍で活動する際に工夫したこと ・今後の活動に向けて(悩んでいること など) ○情報交換(フリートーク) ・他のグループと話したいこと、聞いて おきたいこと、今後の交流会で話し 合いたいこと	12人

【成果】

コロナ禍において、どのように活動していけばよいか悩んでおられるグループが多い中、工夫をしていることなどについて情報交換する機会となりました。また、具体的な活動(送迎や草刈り等)での悩み事などを共有し、それぞれのグループに持ち帰り、解決に向けた話し合いにつなげることができました。



生活支援サポーター交流会

6. 地域での集いの場・居場所づくりの支援<総務課・地域福祉課・在宅福祉課>

◇集いの場・居場所づくりについての支援

集いの場の立ち上げや運営に関わる方々の相談や、居場所づくりの支援を行うとともに、地域サロンへの助成を行いました。また、サロン運営スタッフが情報交換する場を設け、サロンが参加者・担い手の区別なく参加できる場となるよう支援しました。

- ・サロン活動への支援 420回 (令和元年度 379回)
(相談対応・活動調整)
- ・自治会活動への支援 136回 (令和元年度 128回)
(相談対応・活動調整)
- ・集いの場・居場所づくりへの支援 112回 (令和元年度 152回)

○サロン活動への支援

地区	件数
平田	8
市辺	21
玉緒	4
御園	11
建部	9
中野	7
八日市	1
南部	1
永源寺	24
五個荘	27
愛東	0
湖東	26
能登川	131
蒲生	110
合計	380

○自治会活動への支援

地区	件数
平田	3
市辺	2
玉緒	0
御園	0
建部	0
中野	2
八日市	0
南部	0
永源寺	3
五個荘	12
愛東	2
湖東	1
能登川	73
蒲生	12
合計	110

○集いの場・居場所づくりへの支援

地区	件数
平田	5
市辺	0
玉緒	0
御園	2
建部	1
中野	7
八日市	2
南部	0
永源寺	2
五個荘	6
愛東	3
湖東	3
能登川	33
蒲生	8
合計	72

○サロン活動支援助成

サロン活動支援助成	箇所数	回数	助成額
令和元年度	226ヶ所	2,416回	8,257,560円
令和2年度	132ヶ所	910回	2,982,539円

○新型コロナウイルス感染症対策特例サロン活動代替活動応援助成

代替活動応援助成	箇所数	回数	助成額
令和2年度	84ヶ所	330回	1,258,613円

【評価と課題】

新型コロナウイルスにより、活動休止されたサロンや開催回数を減らされたサロンが多くありました。そういったサロンへの支援策として、開催回数が規定の回数に満たなくても助成の対象となるよう要綱を改正したり、開催を休止した際にサロン開催に代わって実施される活動にも助成を認めたりするなど、市と協議の上、柔軟な対応を行いました。

また、サロン活動を続けるには、実施者の負担軽減が欠かせません。実施者にとって負担の少ない運営方法の紹介や、助成金に頼らない実施のあり方など、運営に対する支援が必要です。

今後もコロナウイルスの動向に合わせた柔軟な対応が必要となることから、助成のあり方について市と協議を行っていく必要があると考えます。

◇子どもの居場所づくり支援

地区	活動名	ワーカーの関わり・内容
玉緒	あじと	運営相談・支援、助成金案内、寄附物品調整
中野	なかのごはん	立上げ支援、運営相談、市内子ども食堂情報提供
八日市	おてんとさん 「おかえり食堂」	運営相談・支援、寄附物品調整
南部	子どもカフェ あおぞら	寄附物品調整
五個荘	てんびんの里 みなみ	市内子ども食堂情報提供、寄附物品調整
湖東	あじさい食堂	運営相談・支援、寄附物品調整
能登川	おかげ SUN のとが和 「かふえ和(わか)」	運営相談・支援、寄附物品調整
蒲生	かたりべ食堂	寄附物品調整

【成果】

- ・子ども食堂への指定寄附が増えたことや地域の居場所の一つとして理解する人が増え、応援する人が増えています。
- ・助成金の案内や寄附物品受渡しを行い、市内の子ども食堂の運営を支援しました。

7. 福祉委員(福祉推進委員)との連携<地域福祉課>

小地域福祉活動を進めるため、見守りや支え合い活動の担い手として自治会に設置されている福祉委員の活動を支援しました。福祉委員同士の情報交換や研修、小地域における活動支援を通して、支援が必要な人を地域で支える「見守り会議」や「生活支援活動」などの取り組みにつながりました。

地区名	活動名	ワーカーの関り・内容
市辺	福祉協力員会議	事業相談対応、サロン助成の説明
玉緒	玉緒地区福祉委員会	運営相談対応、情報提供
五個荘	五個荘山本町福祉委員会 五個荘川並町福祉委員会	事業相談対応、情報提供
愛東	北坂町福祉委員会	事業・運営相談対応
能登川	桜ヶ丘福祉の会	運営等相談対応、情報提供
	桜ヶ丘福祉の会 伊庭町ちょボラ委員との交流会	交流会の調整

8. 善意による「寄附」や「募金」の有効活用

(善意銀行、赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金)<総務課>

◇善意銀行

寄附物品などを必要とされている方にお渡し、特に生活困窮者支援としての役割を担っています。ただ、需要と供給のバランスや払い出し先が限られてきていることから、寄附者と受領者のマッチングについて、今後、幅広い配分方法と広報について検討していきます。

《預託》

・金銭預託

	令和元年度		令和2年度	
	件数	金額	件数	金額
一般寄附金	72 件	3,215,966 円	59 件	830,801 円
指定寄附金	35 件	1,350,152 円	42 件	1,556,323 円
自販機設置手数料収入	12 ヶ月	55,217 円	12 ヶ月	40,062 円

・物品預託

お米、食料品、衣類、タオル、リハビリパンツ、野菜等 269 件



小川良(株) マスクの寄附



滋賀日産自動車(株) 車いす寄附

・リサイクル預託

使用済み切手	58 件	使用済みテレカ	4 件
アルミ缶	6 件	牛乳パック	2 件
書き損じハガキ	8 件	ペットボトルキャップ	58 件
ベルマーク	15 件	プルトップ	8 件

《預託金品等の払い出し》

- ・金銭払出
 - ・地区社協事業助成 7 地区 340,600 円
 - ・指定助成金支出 3 件 300,000 円
 - ・災害見舞金事業 1 件(火災) 10,000 円
- ・物品払出
 - ・主な払出先 410 件 生活困窮世帯、学童保育所、介護事業所介護サービス利用者、こども食堂、作業所
 - ・緊急用食料品給付事業 21 世帯 26 袋

◇共同募金助成事業審査委員会

共同募金が適切に助成事業に活用できるよう、審査委員による助成事業内容の審査を実施。また、助成を受けた団体からのメッセージをホームページや広報を通して寄附者に発信しました。

	期日	審査・内容	助成実績
第1回 審査会	令和2年 7月26日	地区社協地域交流事業助成(赤い羽根共同募金)	4地区7事業 101,400円
		福祉団体赤い羽根地域活動支援事業(赤い羽根共同募金)	15団体 404,700円
		ボランティアグループ育成・支援事業(赤い羽根共同募金)	25団体 430,100円
		見守り活動スタートアップ助成(テーマ型募金)	1団体 0円 ※1団体取組みあり。 ただし助成金返還。
第2回 審査会	令和2年 11月20日	地区社協地域歳末たすけあい事業(歳末募金)	7地区8事業 209,700円
		福祉団体歳末たすけあい地域活動支援事業(歳末募金)	6団体 152,100円
		歳末たすけあい激励金(歳末募金)	128世帯 1,140,000円

9. 飛び出し人形設置の支援(赤い羽根共同募金) <総務課>

交通事故から子どもの命を守るための注意喚起として、飛び出し人形の設置を支援しました。



令和元年度		令和2年度	
83自治会	83体	67自治会	67体

【評価と課題】

「子どもを事故から守る募金」を主な財源として飛び出し人形を製作・配付し、市内の交通安全啓発を行いました。

今後も事業を継続し、市内の交通安全啓発に取り組むとともに、飛び出し人形の配布を通し共同募金の啓発に取り組みます。

10. 子どもの遊び場遊具への助成(赤い羽根共同募金) <総務課>

子どもたちが安心して安全に遊べるよう遊具の新設・補修に助成を行いました。

	令和元年度		令和2年度	
新設	2件	292,000円	4件	600,000円
補修	10件	380,000円	11件	476,600円



【評価と課題】

子どもの遊び場遊具を補修・新設することで、子どもたちが楽しく安心安全に遊ぶ場づくりに有効に活用できました。共同募金活動の周知のため、より各自治会への情報発信を様々な媒体を活用して行っていきます。

11. Food Day25 による‘食’の支援<総務課・相談支援課>

生活に困っておられる方が、食の心配をせず安心して新年を迎えられるようにとの思いで、年末に食糧等をお届けする‘食’の支援「Food Day25」を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年実施していた炊き出しは中止とし、3日間に分散した事前申し込み形式による食糧配付を行いました。市民の皆様からの善意によるご寄附を、民生委員児童委員をはじめ、市や福祉事業所の協力により食糧を必要とする多くの方にお渡しすることができました。今後も皆様の声に耳を傾け、社協の困窮者支援の一つとして取り組んでいきたいと考えます。

◇Food Day25 の開催

日 時：令和2年12月23日(水)～25日(金)

場 所：東近江市福祉センターハートピア、社協各事務所

・ 寄附件数

食糧品等	72 件
------	------

・ 配付件数

平田	5 件	永源寺	3 件
市辺	8 件	五個荘	23 件
玉緒	2 件	愛東	9 件
御園	16 件	湖東	7 件
建部	3 件	能登川	26 件
中野	18 件	蒲生	24 件
八日市	19 件	不明	1 件
南部	41 件		
		合計	205 件

目標② 気兼ねなく「助けて」と言えるしくみづくり ～「ようきて」「よう言うて」「おおきにな」～

1. 「地区ボランティアセンター」の設置と活動支援<地域福祉課>

身近な地域で、住民が住民の困りごとを聞き、解決に向けて必要な資源（人や活動など）をつなげる仕組みとして、地区ボランティアセンターの設置をすすめました。今年度はモデル地区を4地区（御園・愛東・湖東・蒲生）指定し、立ち上げに力を入れました。また、今ある話し合いや活動の場で、「地区ボランティアセンター」の機能を付加できないか、働きかけました。

日時	内容	参加者数
令和2年 12月22日(火) 10:00～12:00	地区ボランティアセンター勉強会 ○話題提供「東近江市で地区ボラセンの設置を進めている目的、地区ボラセンの良さや目指していることについて」 東近江市社会福祉協議会 ○湖東地区ボラセン「湖東いこいこ広場」事例発表 湖東の支え合いを考えるプロジェクト 高田 房良氏 ○講義「地区ボランティアセンターの良さや必要性・全国的事例紹介」 講師 京都光華女子大学 准教授 南多恵子 氏 ○グループ懇談「地区ボランティアセンターでしたいこと・悩みどころ」	21 名



地区ボラセン勉強会



◇地区ボラセン設置に向けた働きかけ

地区	どのような場に	働きかけ
平田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平田ふくしのまちプラン推進委員会 ・ チョイサポ平田 	平田ふくしのまちプランが進めてきた「カフェゆきのやまとふれあい広場」が地区ボラセンである事をメンバーで確認ができ、令和2年度は、「カフェゆきのやまの強化年」として、地区ボラセンの機能を持てるよう機運を高めてきた。しかし、コロナ禍のため、カフェが休止となり、進めることが難しかった。
市辺	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区住民福祉活動計画推進会議 ・ 「よってみてカフェ こぼし」 	地域の人が身近に集える場所で、自然と困りごとが話せ、その人らしく活躍できる場づくりを検討。
玉緒	<ul style="list-style-type: none"> ・ 玉緒地区社協 ・ 地区住民福祉活動計画推進会議 	地区ボラセンの話を聞いてもらい、玉緒地区でのボラセンのイメージや必要性について話し合うきっかけをつくった。
★御園	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミセン館長 ・ まち協運営委員会 ・ 御園地区住民福祉推進会議 ・ 地区社協役員 	・ 地区ボラセン設置に向けたモデル事業の説明や地区ボラセンの機能等を説明。今後どのように進めていくか検討し、まち協の運営委員会で進めていくことになった。
建部	<ul style="list-style-type: none"> ・ たてべの福祉を語る場 ・ たてべの地域づくりを考える会 	コミセンサロンが地区ボラセンにできないか、運営状況などを情報収集した。たてべの福祉を語る場で各サロンの情報交換をする中で、人財の発見ができ、サロンが活躍の場になっていることがわかり、第2層協議体で人財発掘と活躍の場づくりについて協議した。
八日市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2層協議体 ・ まちつなぎ八日市 	第2層協議体の話し合いにおいて、人財の発見が取り組みとして挙げられたことから地区ボラセンについて説明おこなった。
南部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南部地区住民福祉活動計画ワーキング会議 	「ほっとまちカフェ」をどういう場にしたいか話し合い、地区ボラセンの機能を持てるよう働きかけた。
永源寺	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住めば都プラン推進会議 	“得意を活かせる永源寺” “やってみたいができる、相談できる永源寺” を目指して、地区ボラセンの機能について、話し合った。
五個荘	<ul style="list-style-type: none"> ・ 五個荘地区社会福祉協議会 	地区社協の事業計画に、地区ボラセンの取り組みを挙げられたことから、地区ボラセンの情報提供を行った

★愛東	<ul style="list-style-type: none"> ・愛東くらしの会議 ・愛東地区社協 	愛東くらしの会議事務局会議にて、地区ボラセンについての説明を行い、機能について話し合った。
★湖東	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会 福祉部会 ・湖東の支え合いを考えるプロジェクト ・湖東地区社協 ・まちカフェ 	年度初めに、まち協、地区社協、湖東の支え合いを考えるプロジェクトのメンバーに、地区ボラセンが湖東のまちづくりにつながることを伝え、機運を高めた。その後、10月に地域の人がつながりあえる場、憩いの場、活躍の場を目的に地区ボラセンを立ち上げた。
能登川	<ul style="list-style-type: none"> ・能登川地区住民福祉活動計画推進会議(第2層協議体) 	地域での生きがいづくりや困っている事、こんな事やってみたい等が話せる場として、レコードカフェを開催。レコードカフェを中心に今後地区ボラセンの機能を持った場にしていくこととなった。
★蒲生	<ul style="list-style-type: none"> ・第2層協議体 わいがや支え合い蒲生 	第2層協議体で話し合いを継続し、12月に地区ボラセン「わいが屋@せせらぎ」をプレオープン。地域住民がワイワイガヤガヤ思い思いに過ごせる場を目指し、令和3年度に本格実施。

★…令和2年度モデル地区

◇地区ボランティアセンターの活動支援

住民主体の運営や住民ならではの柔軟な活動を支援し、住民が住民の相談を受け、必要な資源へつなぐ取り組みを支援しました。

地区	どのような場に	ワーカーの関わり・内容
中野	中野地区ボランティアセンターを考える会	「いきがいづくり」や「健康づくり」をテーマに、誰もが人財として活躍できる機会づくりを支援。
湖東	湖東いこいこ広場	開催に向けた企画相談、広報の作成支援、ボランティア調整等を支援。
蒲生	わいが屋@せせらぎ	開催に向けた企画検討支援、ボランティア調整等を支援。



【中野地区】
中野地区ボラセン



【湖東地区】
湖東いこいこ広場



【蒲生地区】
わいが屋@せせらぎ

【成果】

モデル地区を設置することで、立ち上げの後押しとなり、2地区で地区ボラセンを立ち上げることができました。

モデル地区と運営中の地区を対象に、地区ボランティアセンター勉強会を開催し、地区ボラセンのイメージを具体的にもてたことで機運が高まり、各地区での議論のきっかけとなりました。また、お互いの情報交換により各地区の横のつながりがで

き、東近江市における地区ボラセン立ち上げの盛り上がりにつながりました。

各地区に応じた働きかけにより、それぞれの地区に合った地区ボラセンの形が見え、設置の見通しができた地区が増えました。

2. 生活支援体制整備事業 第1層協議体の開催と第2層へのはたらきかけ

＜地域福祉課＞

◇地域支え合い推進協議体 いっそう元気！東近江（第1層協議体）の開催

市域全体で住民や医療福祉の専門職、暮らしに関わる様々な人や団体が、それぞれの強み弱みを持ち寄り、制度の枠にとらわれない支援や地域づくりについて協議する場として『地域支え合い推進協議体 いっそう元気！東近江』を開催しました。

東近江市で課題となっている3つテーマについて、重点的に取り組みました。また、2層域(地区)の協議体やコーディネーターの役割や機能について話し合い、その実践につなげていけるよう協議しました。

日時	内容	参加者
令和2年 8月4日(火) 19:00～20:30	<p>第12回 地域支え合い推進協議体 いっそう元気！東近江</p> <p>○地域支え合いコーディネーターより報告等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度「いっそう元気！東近江」で進めることの共有 ・第2層協議体の進捗報告 <p>○いっそう元気！東近江 各プロジェクトより成果報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの目的と実践 ・プロジェクトから見てきたこと（成果や課題） <p>○グループ別懇談</p> <p>これまでのプロジェクトの取り組みから、今後、東近江市で必要なことを考えていくために…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各プロジェクトの成果で“いいね”と感じたポイント ・『いっそう元気！東近江』で考えていく課題を出し合い、どのように協議していくかを考える。 	32名
令和2年 12月22日(火) 19:00～21:00	<p>第13回 地域支え合い推進協議体 いっそう元気！東近江</p> <p>○地域支え合いコーディネーターより報告等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いっそう元気！東近江 全体会と各プロジェクトの今後の進め方の説明 <p>○各プロジェクトメンバー再編に向けた希望確認</p> <p>○懇談「東近江市で必要なことを見出す」</p> <p>テーマ①「買い物サポートと見守りを考える」</p> <p>話題提供：生活協同組合コープしが 北村さん</p> <p>懇談内容：気になる人や困りごとなど、買い物に関わる商店や事業所の気づいたことが、どのように支援につながっていくと良いか。そのためにどんなしくみがあると良いか。</p> <p>テーマ②「地域におけるフレイル予防・介護予防を考える」</p> <p>話題提供：東近江市福祉総合支援課 松浦参事</p> <p>懇談内容：フレイル予防・介護予防が住民の自分ごととなり地域の取り組みを上げていくために必要なこと</p>	32名

【地域支え合い推進会議「いっそう元気！東近江」】



◇地域支え合い推進協議体 いっそう元気！東近江 プロジェクトの開催・運営

①住民と医療・福祉の専門職がつながるプロジェクト

プロジェクトの目的	
<p>いつまでも地域で暮らし続けるには、介護保険等のサービス利用だけでは難しく、地域とのつながり、支え合いが必要である。しかし、サービスを利用するとサロンなどの地域活動への参加がなくなったり、専門職が関わることへの安心感などから地域の住民も気に掛けなくなる現状がある。また、医療・福祉の専門職も、その人が地域で暮らしていくことを見据えた介護計画等を立てる必要がある。そこで、住民や専門職のサービス利用に対する意識を変え、その人が“心豊か”に“自立して”暮らしていくことを“支える”ために、住民と専門職がつながる方策や連携のしどころを明らかにする。</p>	
会議開催回数	プロジェクトメンバー
2回	民生委員・児童委員 / ケアマネジャー / ホームヘルパー 看護師(訪問看護) / 作業療法士(訪問リハビリテーション) 管理栄養士 / 特別養護老人ホーム職員 小規模多機能型居宅介護支援事業所ケアマネジャー 市福祉総合支援課職員 / 市社協地域福祉課担当者
プロジェクトで検討したこと	
<ul style="list-style-type: none"> ○サービスを利用しながら、地域でのつながりを維持して豊かに暮らしていくために必要なこと。また、そのために住民と専門職がどのようにつながると良いか。 ○地域の「サービスを利用されたら安心」という意識をどうしたら変えていけるのか。 ○介護保険サービスの「世話になる」という意識を変え、「自立支援」の考え方を広げていくために必要なこと。 	
プロジェクトの成果	
<p>○フレイル予防の大切さを伝える寸劇やカードゲームなど、講義形式ではない方法で住民と医療福祉の専門職がつながるきっかけについて、検討を進めることができた。</p>	

②暮らしを豊かにするための外出支援プロジェクト

プロジェクトの目的
<p>交通手段など移動に困っている人が多く、送迎などの支援があれば地域で暮らしていける人もいる。一方、活動中の「移送ボランティア」や「生活支援サポーター」は、買い物や通院などの送迎で手いっぱい状況。暮らしを豊かにするには楽しみや趣味のための外出支援も必要であり、担い手が不足している。担い手の育成や外出支援の活動に対して何がハードルになっているかを探る必要がある。外出に関するニーズと資源、担い手の課題を明らかにし、暮らしを豊かにする外出支援について協議し実践する。</p>

会議開催回数	プロジェクトメンバー
2回	生活支援サポーター / 移送ボランティア / ケアマネジャー シルバー人材センター職員 / 特別養護老人ホーム職員、コンビニ店長/市 福祉総合支援課職員 / 市社協地域福祉課担当者
プロジェクトで検討したこと	
<p>○外出に関するニーズの把握や今ある資源の整理。</p> <p>○公共交通機関など既存の資源が活用されているか、足りているかを探る。</p> <p>○暮らしの豊かさにつながる外出支援に必要なツールや機会づくり。</p> <p>○担い手不足を解決していくためにどんなことが必要かを明らかにする。</p> <p>○外出支援に関わる担い手の育成と活動のきっかけづくり。</p>	
プロジェクトの成果	
<p>○「社会福祉法人の車両を活用するしくみ」や「ちょこっとバスのおでかけガイド」、「ちょこっとバスを活用したおでかけツアー」などのツールを、2層域で実践していく協議を行うことができた。</p>	

③農で活躍プロジェクト

プロジェクトの目的	
<p>農業が盛んな東近江市において、野菜づくりが高齢者の「いきがい」につながっている。高齢になり介護保険サービスなどの支援が必要になっても、培ってきた農業の経験を活かすことができる。また、サロンなどの居場所への男性の参加が少ないが、農業を切り口とした介護予防、社会参加が期待できる。畑や野菜づくりを通して、「誰もが活躍できる機会づくり」、「いきがい」や「介護予防」につながる機会づくりについて協議し実践する。</p>	
会議開催回数	プロジェクトメンバー
2回	生活支援サポーター / 生協コープ滋賀職員 / ホームヘルパー 図書館職員 / 御園地区住民福祉活動推進会議メンバー 御園地区コミュニティセンター館長 市福祉総合支援課職員 / 市社協地域福祉課担当者
プロジェクトで検討したこと	
<p>○畑や野菜づくりを通じて、「いきがい」「やりがい」を感じられる機会づくり。</p> <p>○支援が必要かどうかに関わらず、農業を通じていつまでも活躍できる場づくり。</p> <p>○畑づくりを通じた「仲間づくり」「居場所づくり」</p>	
プロジェクトの成果	
<p>○「お野菜市」や「野菜づくり講習会」などをパッケージ化し、2層域での“いきがい農業”の推進に向けて、具体的な検討が進められた。</p> <p>○デイサービスなどの施設で、利用者と一緒に畑づくりを行う実践に向けて、検討を進めることができた。</p>	

【成果】

- ・いっそう元気！東近江のメンバーが、3つの各プロジェクトで第2層へ働きかけるツールを作成し、実践を進めることができました。
- ・新たなテーマとして「商店や事業所による見守りを相談につなぐネットワークづくり」、「地域で元気に暮ら続けることのできるフレイル予防」など、新たな課題を見出すことができました。

◇第2層協議体・地域支え合い推進員の設置にむけたはたらきかけ

全ての地区において、住民と専門職が地区の課題解決に向けた協議の場となるよう、協議体の設置運営を行いました。また、住民や専門職と共に地域づくりを考えることを通して、地域支え合い推進員（第2層コーディネーター）の設置を拡充するため、第2層協議体の役割を学ぶ研修会を開催しました。

《第2層協議体・地域支え合い推進員の設置状況》

地区	設置時期	第2層協議体	地域支え合い推進員
平田	検討中	平田地区に必要な地域づくりについて、まち協事務局長(コミセン館長)と相談をしながら立ち上げを検討。地区社協やまちプラン推進会議の位置づけについて意見交換。設置に向けた方向性を確認。	未定
市辺	R2	まち協会長・まち協事務局長・推進会議座長(地区社協会長)・コミセン館長中心とした「市辺の地域づくりを考える市福未来会議」を立ち上げた。	住民コーディネーターを設置予定
玉緒	R2	地区社協役員で『玉緒地区社協 役員会』(玉緒地区まち協福祉部)を第2層協議体に位置付けた。	未定
御園	R1	地区に必要な取り組みの検討をすすめる。また、住民福祉活動推進会議においても、今後の取り組みについて意見交換を行った。	未定
建部	H30	第2層協議体「建部の地域づくりを考える会」を月1回開催。地域のお宝探しや支え合いを広めるための研修会を開催。	住民コーディネーターを設置(2名)
中野	H29	住民福祉活動計画を推進する『なかのよいまち推進会議』(第2層協議体)を月1回開催。地域のお宝探しを行った。	地区ボランティアセンター 住民コーディネーター
八日市	R1	令和元年度のまち協・地区社協・自治連・民児協・コミセン代表者が核メンバーとなり、まち協組織の中に『まちつなぎ八日市』の名称で設置。お宝探し、介護予防の取り組み、子育て世代との交流等を実施。	住民コーディネーターを設置(1名)
南部	検討中	まち協福祉部に位置付けられている『住民福祉活動計画ワーキング会議』を再編していくことを、まち協福祉部長、コミセン館長と検討。	未定
永源寺	検討中	輪つなぎ企画会議・まち協・地区社協・民児協・住めば都推進会議で検討し『新たな協議体』を設ける。	未定
五個荘	H30	『住民福祉活動計画推進会議』に位置づけ、まち協と地区社協が協働開催し、六心会に事務局を置く。	社会福祉法人六心会 地域づくり担当職員
愛東	R1	地区社協が運営する『愛東くらしの会議』に位置づけ、まち協福祉プロジェクトと同時開催。事務局はあいとうふくしモール ほんなら堂に置く。	NPO あいとうふくしモール ほんなら堂職員

湖 東	R1	『湖東の支え合いを考えるプロジェクト』に位置づけ、まち協福祉部会が事務局となり運営。地区ボラセンの取り組みを話し合い、10月から月1回スタート。	未定
能登川	R1	『住民福祉活動計画推進会議』に位置づけ。第2層協議体の機能や運営について意見交換を行った。	未定
蒲 生	R1	『わいがや支え合い蒲生』において、月1回会議を開催。集いの場の発見と発信をするため、地域のお宝探し行う。また、地区ボラセンの設置に向け検討を行い、12月よりプレ開催をスタート。	住民コーディネーターを設置する方向で検討中

◇第2層協議体研修会『地域を元気にする協議体セミナー』の開催

第2層協議体の必要性やこれからの地域づくりを考える機会として、また、今ある資源や活動を活かしながら、さらに支え合いの地域づくりが活性化することを目的に開催しました。

日 時 令和3年3月22日（月）19:00～20:30

場 所 五個荘コミュニティセンター / ZOOMによるオンライン参加

内 容 講演『地域を元気にする協議体づくり

コロナ禍から見えてきた支え合いの地域づくり～』

講師 ご近所福祉クリエーター 酒井 保 氏

参加者 122名（1層協議体メンバー、各地区第2層関係者、医療・福祉の専門職市職員、市社協職員等）



【成果】

- ・生活支援体制整備事業の根幹である「いきがいつくり」や「介護予防」、「支え合いのしくみづくり」を意識した地域づくりを進める第2層協議体が11地区（令和2年度設置：3地区）で設置され、地区に応じた運営が進められました。
- ・第2層協議体を設置するプロセスの中で、地区社協やまち協などの地域団体と医療福祉の専門職がつながり、共に地域づくりについて考えていく基盤ができました。
- ・地域支え合い推進員は、新たに3地区（市辺・建部・八日市）で、各地区に応じた人選により住民コーディネーターが設置されました。協議体のまとめ役である座長や、調整役としてコーディネーターを設置されている地区は、市社協地区担当と共に協議体の運営や地域活動の検討を進めることができました。

3. 社会福祉調査の実施<地域福祉課>

行政が把握している情報とは異なった、さまざまな課題を抱え支援を必要とする人の実態を、民生委員・児童委員と協働して調査を実施しました。

4. 災害時に助け合えるしくみづくり<地域福祉課>

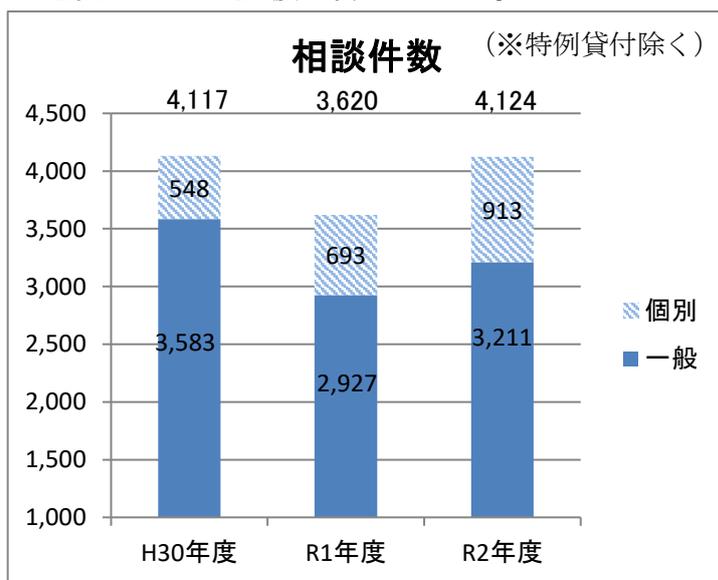
◇災害ボランティアセンター設置・運営訓練の検討

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市総合防災訓練への参加ができませんでした。

今年度は、より実践的な訓練となるよう、BCPに基づき災害フェーズ（発災直後、復旧期、復興期等）を意識した訓練を計画しました。また、地区社会福祉協議会などの地域団体や活動者と連携した災害ボランティアセンターの運営について検討しました。

5. 職員の専門性を活かした相談支援・総合相談事業<相談支援課>

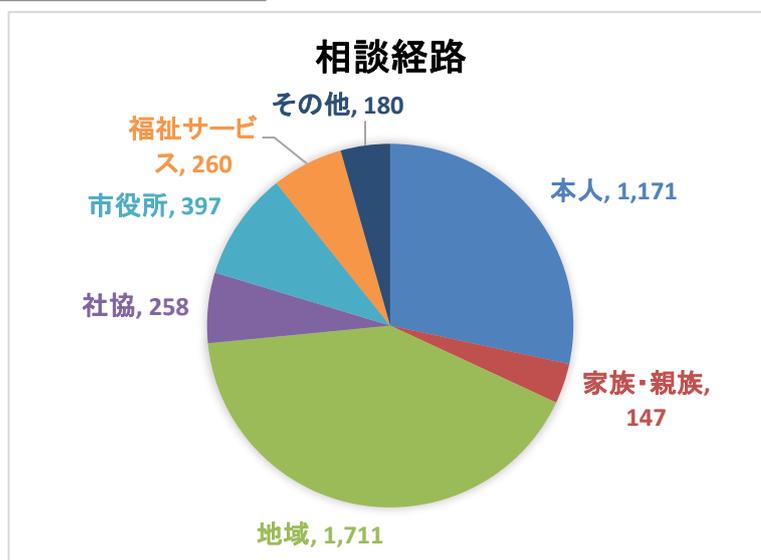
社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・介護支援専門員等の資格を有する社協職員が、専門的な知識や技術と多様な事業を活かし、相談者の抱える困りごとを丸ごと受け止めた支援に努めました。



新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響により、地域活動の自粛や延期に伴う見守り活動等の相談や、減収・失業等による生計維持や負債に関する相談などが多くありました。

相談経路 (単位:件)

本人	1,171
家族・親族	147
地域	1,711
社協	258
市役所	397
福祉サービス	260
その他	180
合計	4,124



結果 (単位: 件) 重複有

解決	1,712
社協による相談の継続・支援	1,913
他機関の紹介・引継	435
その他	73



会費	7
善意銀行	55
共同募金運動	17
助成事業	93
ボランティア	211
関係団体支援	102
地域福祉活動(自治会)	120
地域福祉活動(地区)	108
地域福祉活動(市域)	57
福祉共育	41
法律相談	274
資金相談	415
食糧支援	78
その他	335



地域	224
市役所	139
福祉サービス	34
その他	50

6. 法律相談の実施<相談支援課>

日々の暮らしの中の困りごとに、法的な立場から顧問弁護士が助言を行う無料法律相談を実施しました。申し込み受付時に相談者の困りごとをお聞かせいただき、法的に助言を得たい点を整理し事前に弁護士に報告することで、相談当日の時間が相談者にとって有益なものとなるよう支援しました。

借金・債務整理、相続・贈与等、金銭・財産に関わる相談が多く寄せられたとともに、債務整理の相談では、解決に専門的な知識等も必要となることから、弁護士に手続きを依頼されるケースが多くみられました。

相談件数 48 件

【相談内容】

離婚(調停、養育費、慰謝料等) 5 件、借金・債務整理 9 件、相続・贈与 8 件
 金銭トラブル 4 件、土地(売買、工事、際面等) 7 件、慰謝料請求 3 件、ハラスメント被害 1 件
 ストーカー被害 1 件、遺言 1 件、調停 1 件、裁判 1 件、墓地管理 1 件、成年後見制度 1 件
 工事トラブル 1 件、サービストラブル 1 件、不当解雇 1 件、ペットトラブル 1 件、家族間トラブル 1 件

*解決 38 件 (解決策、法的根拠がわかる、納得等)
 弁護士依頼 4 件 (債務整理等)
 社協相談 3 件 (家計相談)
 外部紹介 1 件 (支援機関等)
 その他 2 件 (答え出ない、納得できない等)

7. 生活困窮者への生活支援<相談支援課>

(1) 家計改善支援事業の実施

家計改善支援事業では、経済的に困窮されている方に、困窮状態から脱し、再び困窮状態にならないための家計のやりくりのアドバイスや、滞納や借金の整理などを支援しました。コロナ禍で収入改善が図れない方が多く、厳しい状況下の中でしたが、市福祉総合支援課暮らし相談支援係(自立相談)と連携し、相談者に寄り添いながら課題に応じた支援に努めました。

【家計改善支援事業実績】

相談経路 人数・支援内容		自立相談支援事業		合計
		家計改善支援 事業プランあり	家計改善支援 事業プランなし	
支援者数(実人数)		47名	29名※	76名
支援 回数	相談回数	784回	180回	964回
	家計表作成 キャッシュフロー表作成	69回	14回	83件
	支援調整会議	41回	2回	43回
	合計	894回	196回	1,090回

(※)
プランなしからプ
ランありへ移行し
た19名を含む

*プランありの方の状況(47名)

	支援継続中	終了			
		目標達成	ケース連絡会	本人希望	生保移行、他
人数	32	5	7	2	1

【目標達成】 プラン期間 (平均) 12ヶ月 (最長2年3ヵ月 最短3ヶ月)
モニタリング・評価 (平均) 6.5回

《見られた変化》

- ・就労収入の増加
- ・生活面の改善意欲の向上
- ・債務整理等による負債の縮小
- ・家計支出の減少
- ・公的給付の受給による収入の増加
- ・貸付金による一時的な支出への対応

*会議等 家計改善支援事業支援調整会議 年12回
家計改善支援事業ケース連絡会 年12回

(2) 生活福祉資金・小口貸付資金事業

低所得者世帯等に対して、一時的に資金が必要な時に民生委員・児童委員や生活困窮者自立支援制度相談窓口(市)と連携し、生活福祉資金の貸付を通して生活再建にむけた支援を行いました。生活福祉資金で対応できない方には、本会独自の小口貸付資金を活用し、即応した相談支援に努めました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響による失業や減収で、生活資金にお困りの方々への「特例貸付」の対応を行いました。

特例貸付の対応を行う中で、市内在住の外国籍の方や、今まで支援対象と捉えていなかった方への相談対応を行うこととなりました。これは、本会の相談体制の整備や対応方法を考える貴重な材料となりました。

緊急食料支援や善意銀行の寄附物品の活用、S&Sや就労支援につなぐなど、経済的困窮の背景にある課題に着目し、貸付による経済面の支援だけにならない対応に努めました。

【生活福祉資金実績】

	H30年度	R1年度	R2年度	前年度比較
相談者数	238	251	241	△10
相談回数	487	542	343	△99
貸付件数	26	31	14	△17
貸付金額	26,612,000	15,422,000	8,890,000	△6,532,000

【貸付資金の種類別件数】

	H30 年度	R1 年度	R2 年度
総合支援	0	3	0
緊急小口	9	7	4
福祉費	5	9	2
教育支援	11	12	8
臨時特例	0	0	0
不動産担保型	1	0	0

生活福祉資金は、令和元年度に比べ、通常の貸付件数は減少しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付の相談者数・相談件数が増大しました。

(特例貸付相談延べ件数：9,679 件)

長引く感染症の影響で、貸付により生活再建ができなかった方や今後の償還にむけた支援が必要な方への対応について検討が必要な状況です。

小口貸付では、貸付決定件数 21 件が生活保護申請、初回保護費受給までのつなぎとしての借入となっています。

【新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付 実績】

* () 内数字は外国籍の方

	申請件数 【単位：人】	内 訳		申請金額【円】
		減 収	失 業	
緊急小口資金	1,535(772)	1,279(675)	256(97)	295,760,000
総合支援資金	1,402(761)	1,173(663)	229(98)	718,520,000
総合支援資金 延長	590(301)	471(240)	119(61)	319,960,000
総合支援資金 再貸付	549(298)	502(280)	47(18)	298,100,000
合 計	4,076(2,132)	3,425(1,858)	651(274)	1,632,340,000

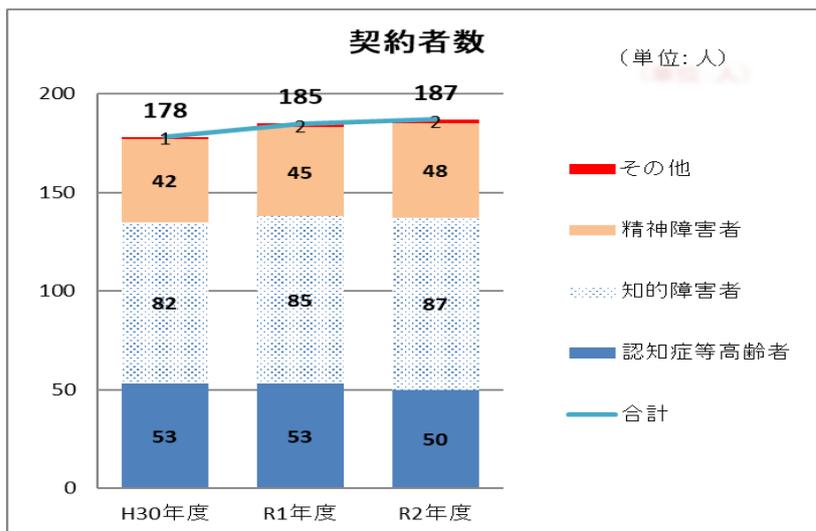
【小口貸付資金】

* 貸付金額は貸付決定総額

	H30 年度	R1 年度	R2 年度	前年度比較
相談者数	58	54	34	△ 20
相談件数	130	152	72	△ 80
貸付件数	10	21	22	+ 1
貸付金額	250,000	510,000	565,300	+55,300
償還件数	75	41	31	△ 10
償還金額	390,800	595,200	572,300	△22,900

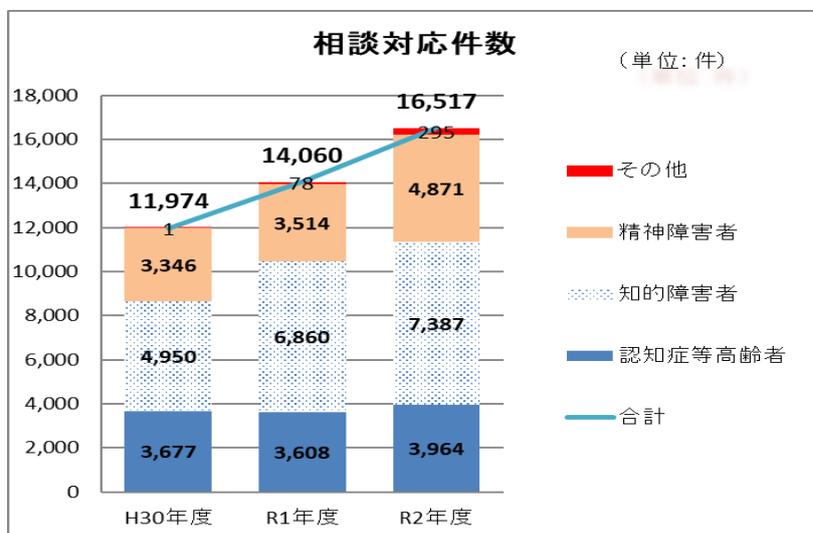
8. 地域福祉権利擁護事業の実施＜相談支援課＞

認知症・精神障がい・知的障がいのある方などが、地域で自立した生活が送れるよう、福祉サービスの利用に関する手続きや日常的な金銭の管理を中心とした支援を行いました。令和2年度は、コロナ禍の中で利用者・職員が互いに感染防止を心掛けながらの支援提供に努めました。地域のボランティア手作りのマスクをお届けすることができ、大変喜んでいただけました。新規相談や待機者への対応にも力を入れ、スムーズに支援提供ができるよう努めました。



令和2年度
新規契約者 14名
終了者 12名

令和2年度末契約者数187名のうち、生活保護世帯52名



令和2年度はコロナ禍で訪問や面談の時間を短縮するなど、感染拡大防止に取り組みました。その反動もあり、電話での相談が増加。人と出会う機会が減り、寂しさを感じて電話をしてこられる方も多くおられました。

9. 成年後見制度の利用支援<相談支援課>

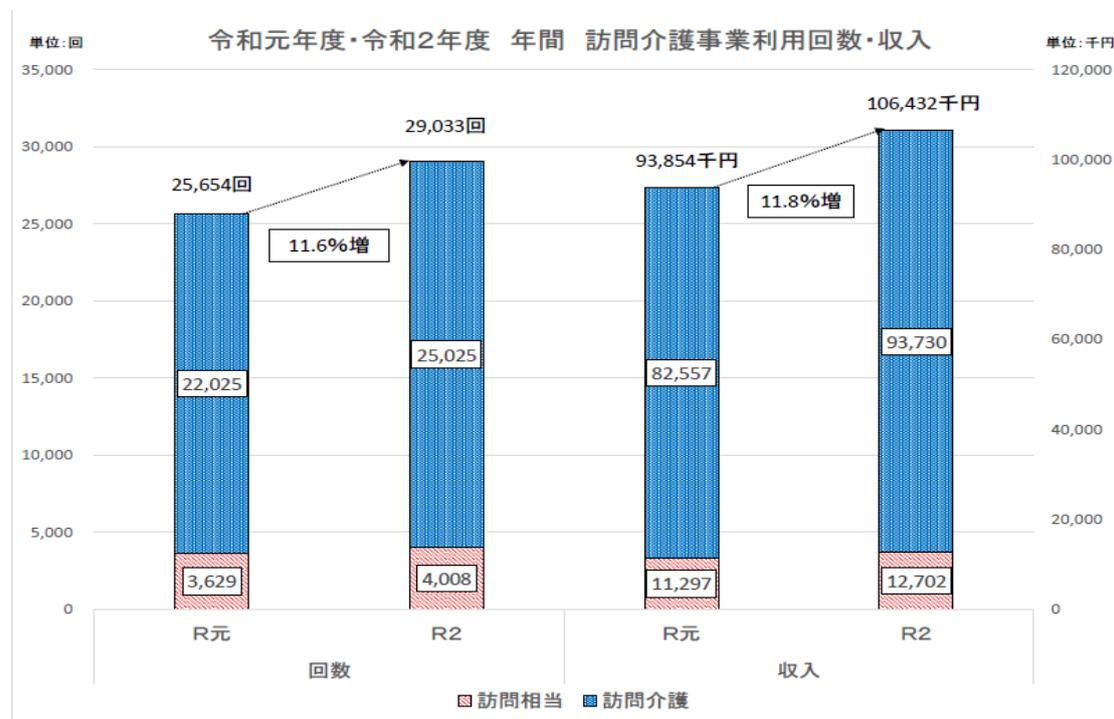
法的に権利を守る成年後見制度を周知し、必要な人が適切に利用できるよう支援しました。

- ①常設相談での成年後見に関する相談への対応 (制度説明)
- ②地域福祉権利擁護事業利用者の後見申し立て支援、新規相談者への相談対応。
- ③困窮者支援との連携や相談対応 (制度説明)
- ④東近江圏域成年後見サポートセンターE-SORA運営への参画
 - ・運営委員会 年2回参加
 - ・運営委員会 (実務者) 年5回参加

10. 在宅福祉サービスの実施と相談機能の充実<相談支援課・在宅福祉課>

(1) 介護保険事業

①訪問介護・訪問介護相当サービス（介護予防）事業



- ・発熱や新型コロナウイルス感染の疑いにより、デイサービスや、ショートステイの受け入れが中止となり、訪問介護で対応することがありました。

	ゆうあいの家	なごみ	せせらぎ	合計
令和2年度実利用者数	123名	77名	55名	355名

【取り組み】

- ・ヘルパーが訪問している中で気づいたご利用者の困りごとについて、他課に発信し連携しました。

【評価】

- ・事業所だけで解決できないことを他課に発信することで、ご利用者が地域のボランティアの方や善意銀行とつながり、生活の困りごとが解決に向かいました。

【取り組み】

- ・キャリア学習として小学校から依頼があり、介護の仕事を知ってもらうため、ヘルパーとデイサービスの職員で小学校に出向きました。

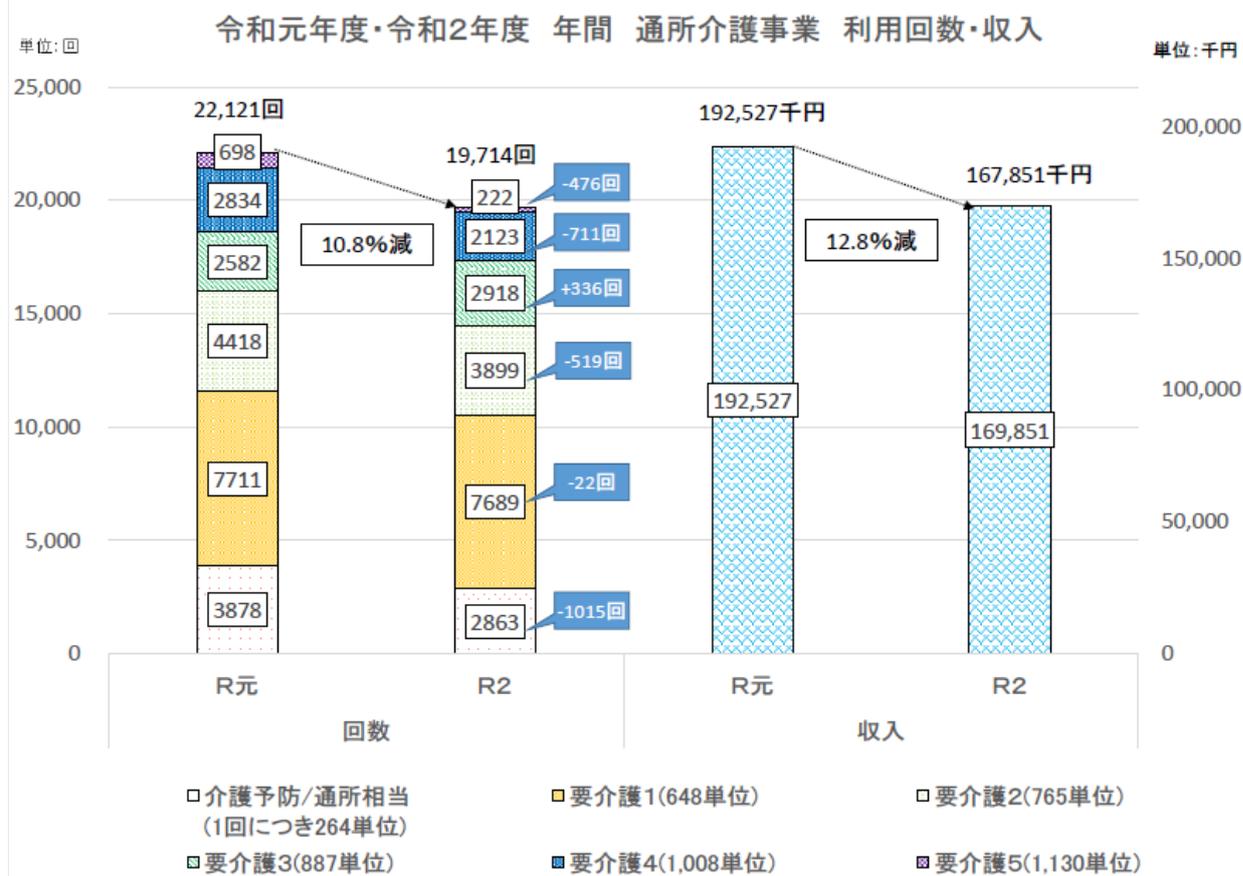
【評価】

- ・介護の仕事は施設系のイメージが強く、特に訪問介護について、知っている子どもが少なく、実際にオムツや洗髪器を見たり、車いすを使い介助する側、される側を体験することで相手の立場に立って考えることや限られた設備しかない自宅で提供される介護サービスなどに興味を持ってもらうことができました。



小学校	期日	内容
箕作小学校	令和2年9月30日(水)	高齢者や障害児(者)との関わりについて
八日市南小学校	令和2年12月4日(金)	ヘルパーの仕事について
愛東南小学校	令和3年1月18日(月)	ヘルパーの仕事について

②通所介護・予防通所介護事業



- ・5月15日(金)に能登川保健センターに感染外来が開設されることになり、デイサービスセンターなごみを5月15日(金)から事業休止とし、6月30日(火)をもって事業所を廃止しました。

	ハートピア	ゆうあいの家	じゅぴあ	あさひの	合計	なごみ
令和元年度実績額(円)	31,840,967	35,425,081	39,281,082	42,179,930	148,727,060	43,799,628
令和2年度実績額(円)	29,517,453	42,733,104	39,666,806	52,677,619	164,594,982	5,255,580
差 額(円)	-2,323,514	7,308,023	385,724	10,497,689	15,867,922	-38,544,048
令和2年度実利用者数	50名	71名	72名	70名	263名	55名

【取り組み】

- ・実利用者数に合わせた事業規模への移行を図りました。

【評価】

- ・デイサービスセンターあさひのの定員を20名から25名に定員数を変更しました。一か月の平均利用者数が20名を超える月がありました。また、デイサービスセンターハートピアは、通常規模での事業を行ってきましたが、令和3年度から地域密着型通所介護事業所として運営できるよう事業転換を行いました。

【取り組み】

- ・事業所活動の発信

【評価】

- ・事業所では、ご利用者が得意とされてきたことを発揮できるように活動の場の提供を行いました。活動されている様子は、通信の作成やFacebookなどで発信し、ケアマネジャーやご家族に対して事業所での取り組みをお伝えしました。また、ご利用者やご家族の困りごとをケアマネジャーと協力しながら解決につながるよう働きかけを行って来ました。



【取り組み】

- ・介護予防や健康づくりのため、地域の集いの場へ出向きました。

【評価】

- ・介護予防教室では、「普段、外に出ていても会えない人と会える場所になっている」、「教えてもらった体操をちょっとした時間に行っている」、「ここまで続けてきたから今も元気でいられる」、「コロナ禍で会えないのでこういう機会があると皆と会えるからうれしい」との声を聞かせていただいています。また、各事業所へ自治会のサロンへの依頼があり、認知症の学習会や体操や脳トレなど依頼に沿ったプログラムを提供しました。

介護予防教室

介護予防教室	期日	内容
大塚町 近所でみんなと介護予防	8月5日(水)、9月2日(水)、10月7日(水) 11月4日(水)、12月9日(水)、1月6日(水) 2月3日(水)、3月3日(水)	介護予防運動、脳トレ

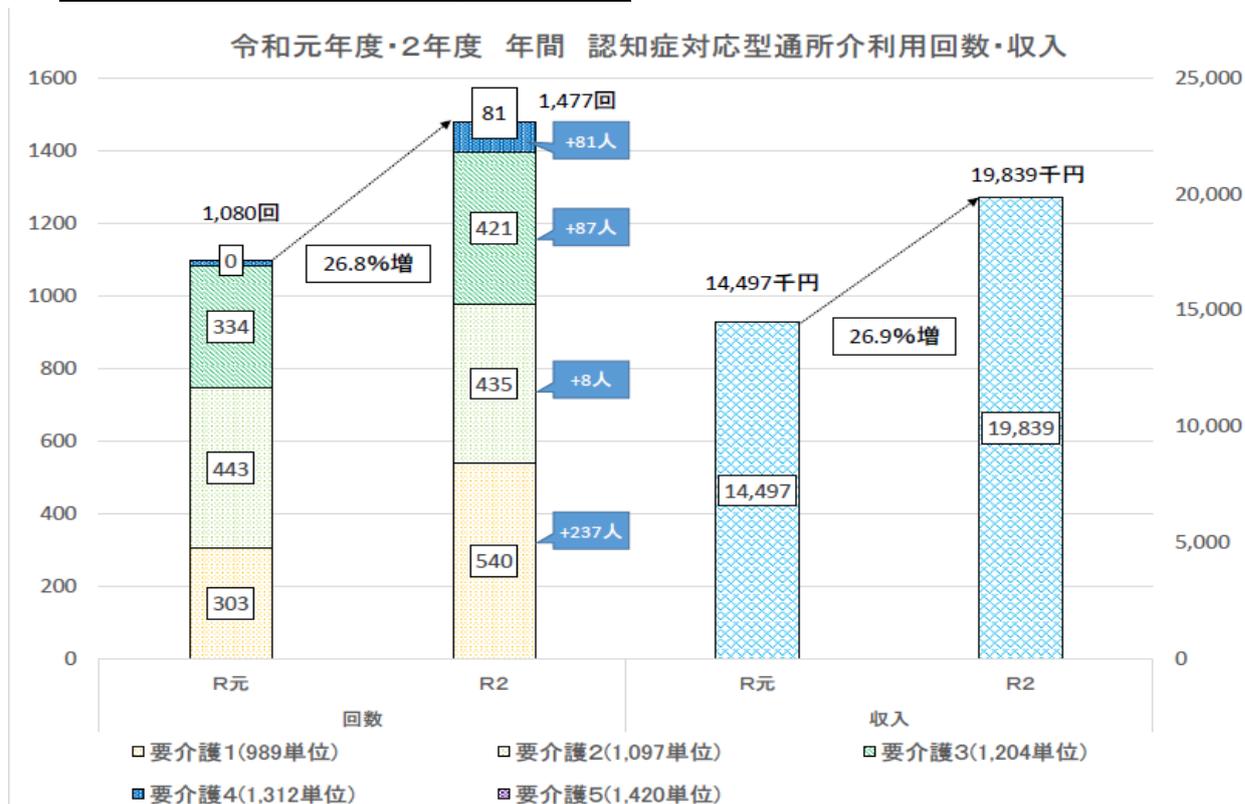
自治会サロン等

自治会等	期日	内容
小川自治会	10月24日(土)	住民福祉懇談会、介護予防について、健康体操
本町自治会	11月5日(木)	認知症について、体操(脳トレ)
中里自治会	11月18日(水)	介護予防体操(脳トレ)
大地自治会	11月21日(土)	認知症学習会

佐野老人クラブ	12月2日(水)	体操(脳トレ)
沖野団地自治会	2月9日(火)	体操(脳トレ)、レクリエーション
東本町自治会	2月25日(木)	介護予防について、体操

③認知症対応型通所介護事業 「ちやがゆの郷」

令和元年度実利用者数	8名
令和2年度実利用者数	16名



- ・小規模の事業所の特徴を活かし、ご利用者それぞれのケアについてケアマネジャーと連携を図ることで、利用に関する相談が増え、実利用者が増えることにつながりました。

【取り組み】

- ・ご利用者のご家族との個別懇談会を実施しました。

【評価】

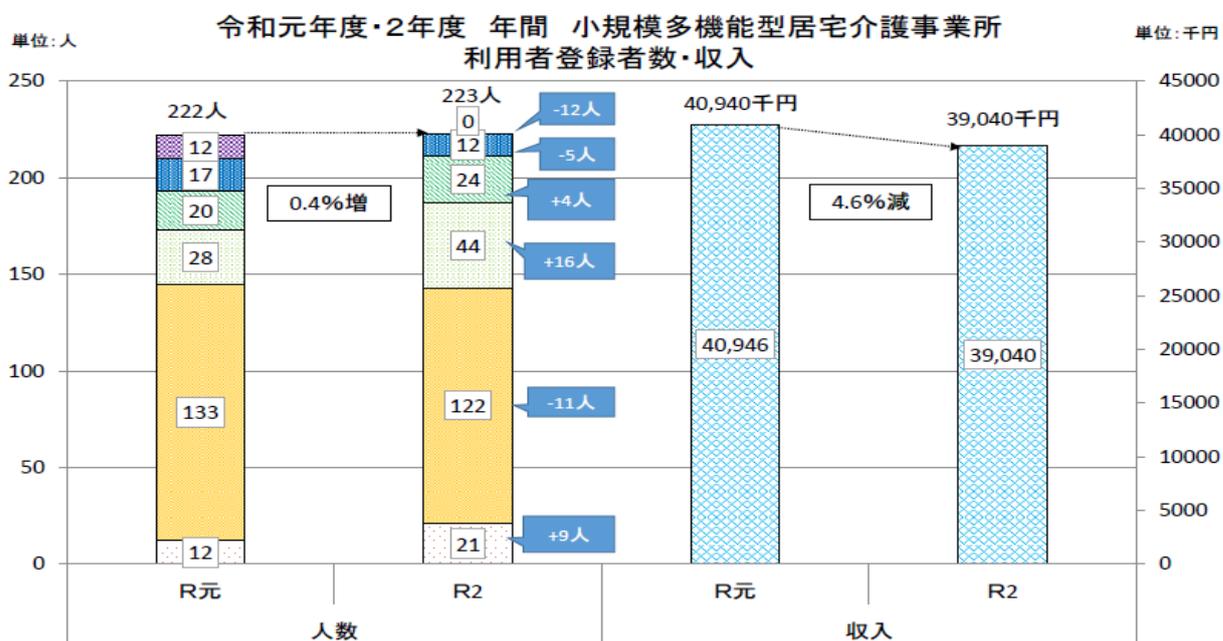
- ・例年は家族会として、ご利用者のご家族に集まっていたのですが、今年度はコロナの影響もあり個別懇談会として実施しました。

家族会とは違い、お一人おひとりの思いをお話してくださいました。認知症が進行していく戸惑いや認知症になっても家では役割を持って過ごしておられることなど様々な話を聞くことができました。ご家族からは『わかってもらえる人と話さないと理解してもらえないから良かった』『ゆっくりたくさん話せて良かった』とのお声を頂きました。



④小規模多機能型居宅介護（介護予防）事業 「かじやの里の新兵衛さん」

令和元年度実利用者数	28名
令和2年度実利用者数	23名



- 要支援1(3,418単位) □ 要支援2(6,908単位) □ 要介護1(10,364単位) □ 要介護2(15,232単位)
- 要介護3(22,157単位) □ 要介護4(24,454単位) □ 要介護5(26,964単位)

- ・利用人数に差はありませんが、要支援の方の利用が増えたことと、要介護5の方の利用が減ったことで収入が減少しています。

【取り組み】

- ・地域との交流活動

【評価】

- ・事業所が実施する避難訓練には、近隣の住民さんや運営推進委員さんに参加していただき、消火、避難訓練を実施しました。もしもの時の対策を普段から考えておくことの大切さを職員と住民さんとで話し合うことができました。



また、住み慣れた地域で暮らし続けていると実感して頂けるよう地域との交流を大切に考えていますが、今年度はコロナ禍のため地域との交流活動が制限されました。制限される中、近隣の幼稚園に芋掘りを見学に行きました。久しぶりの園児たちとの交流で、ご利用者はにこやかな表情で楽しまれていました。

(2) 障がい（児）者福祉サービス事業

障がいのあるなしに関わらず、誰もが人格と個性を尊重し合い、コロナ禍においても、地域における安心したふだんのくらしが行えるよう、サービス提供を実施しました。

①障がい者相談支援事業

＜特定相談支援事業（自主）／障害児相談支援事業（自主）＞

- ・障がい（児）者、またその家族からの相談に応じ、必要な情報の提供、専門機関の紹介や調整を行い、利用者の意思を尊重したサービス計画の作成を行いました。行政や関係機関との即応した情報共有や連携を行い、コロナ禍における利用者の状況や環境に応じた計画の見直し・調整を行いました。また、虐待の防止及び早期発見のため関係機関との連絡調整、障がい（児）者、の権利擁護のために切れ目のない支援連携を行いました。
- ・令和2年度より相談支援専門員を3名配置し、障害種別にかかわらず、24時間365日の相談ができる体制としました。これに伴い、「特定事業所加算Ⅲ」の算定を行い、質の高いサービス提供が行えるよう取り組みました。
- ・新規事業として障害児相談支援事業所の指定を受け、東近江市児童相談支援事業ところとのケース引継ぎや情報共有を図り、新規利用者を受けました。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比較
(年度末)契約者数	184	182	220(3)	+38(+3)
計画作成数	156	161	181(3)	+20(+3)
モニタリング数	332	473	639(1)	+166(+1)

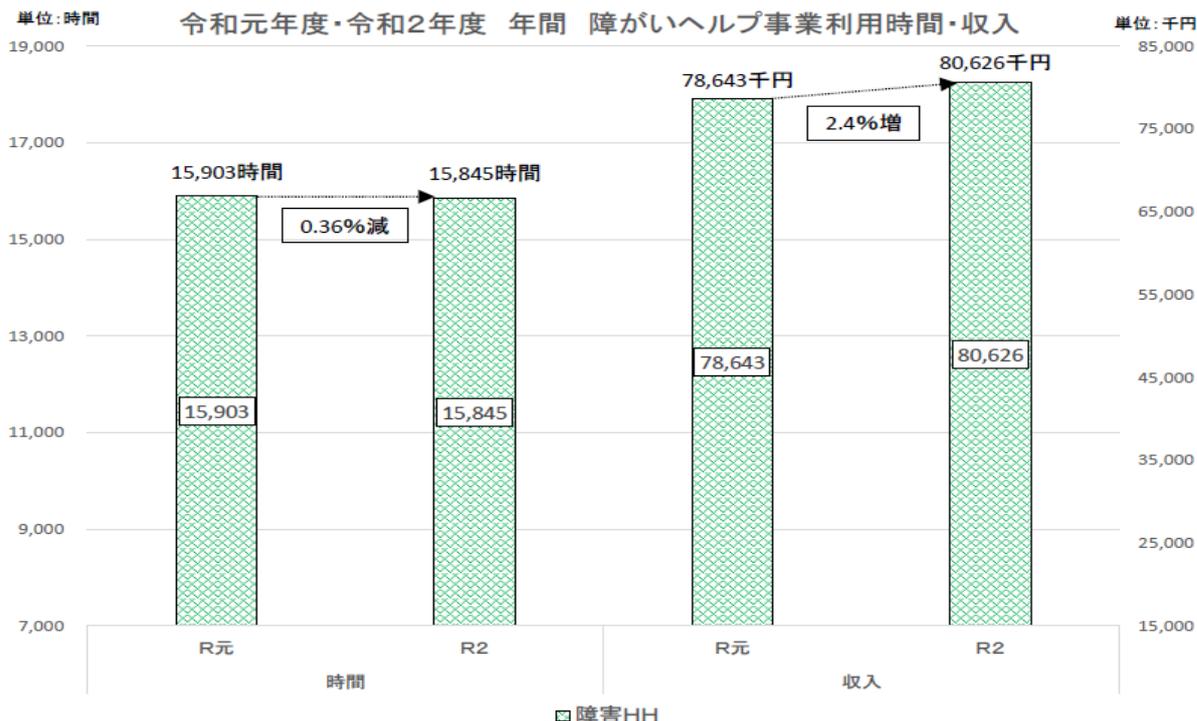
*（ ）は全体における障害児相談支援数

＜相談支援事業(委託)＞

- ・障害相談支援事業での支援を終えてからの方への相談や、社協の窓口寄せられる困りごとを丁寧に聞き取り、必要に応じて専門機関と連携し、相談者の抱える潜在的な課題に着目した支援を行いました。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比較
相談件数	2,974	3,953	5,896	+1,963

②居宅介護（障がいホームヘルパー）事業の実施



- ・移動支援事業（視覚障害ガイドヘルプ事業）では4月～9月に、新型コロナウイルス感染症の関係により、ご利用者が参加されているサークルが中止になり、依頼が減少した事で時間が減少しました。

	ゆうあいの家	なごみ	せせらぎ	合計
令和2年度実利用者数	16名	41名	76名	133名

【取り組み】

- ・利用者の減少や新型コロナウイルス感染症の関係でサービス時間が減少していたため、相談支援事業所に事業所の空き状況やヘルパーが関わることでご利用者の様子が変わった事を伝える等の働きかけをしました。

【評価】

- ・新規利用者の獲得につながりました。

(3) 在宅関連受託事業

◇住居提供事業（永源寺事務所「ゆうあいの家」）【委託】

【取り組み】

- ・冬季（12月末～3月）の間おおむね65歳以上で一人暮らしなど生活に不安のある方の住まいとして、ゆうあいの家で受け入れを行いました。
- ・東近江市の内規の変更により、介護保険において要介護であってもチェックリストにより、対象となられた方は、入居できることになりました。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として管理人、事務所職員が館内の消毒、マスク着用、利用者や訪問者に検温や体調確認を徹底しました。

【評価】

- ・内規変更により、要介護度1、2の方も利用されました。

- ・ご家族や親せきの方から、「寒い冬を一人で過ごされることが心配だったが、ゆうあいの家なら、一人ではないので安心」「冬の間は（東部）に行きづらいが、ゆうあいの家なら今まで通り、顔を見に行くことができる。」と喜ばれました。
 - ・感染症対策の徹底により、安心して利用していただくことができました。
- 【受け入れ人数】 3人（要支援1：1人、要介護1：1人、要介護2：1人）

（4）新型コロナウイルス感染症対策

- ・新型コロナウイルス感染症対策を実施しながらの事業運営となりました。特に年度当初は、感染症対策の情報がまとまっていないことに合わせて、マスクや消毒液など感染予防備品が不足し、判断に迷いながらの営業となりました。
- ・ご利用者へは、感染拡大防止についてのご協力をお願い文書の配布や利用前の検温、手指消毒の実施、マスクの着用をお願いを行いました。職員の体調管理や備品の消毒等を行いながらの営業となっています。
- ・デイサービスセンターゆうあいの家では、2月7日（日）に感染された方が1名おられ、デイサービスを2月7日（日）～11日（木）まで休止としました。感染された方と同じ曜日に利用されていた方とゆうあいの家に勤務する職員全員にPCR検査を実施し、全員陰性でした。
- ・訪問介護事業では、濃厚接触者の疑いのある利用者にオムツ交換が必要なためN95マスク、防護服を着用し対応しました。ご家族が近隣の方の目を気にされていたため、ヘルパーも防護服の着脱場所に配慮が必要でした。感染予防に注意するだけでなく、ご利用者やご家族の気持ちに寄り添う支援が必要でした。
- ・本会の介護サービスをご利用された方は通所系、訪問系合わせて年間790名通所系の営業日数は309日、訪問系は365日。いつだれが感染してもおかしくない状況の中で、クラスターや職員が新型コロナウイルスに感染することなく営業できました。

目標③ 一人ひとりの良さに気づくことから始める人づくり ～高めあい 育ちあい 和気あいあい～

1. 地域住民や市内の地域福祉活動を担う方々が集い、共に学び高め合う場づくり<総務課>

地域の福祉活動、市民活動、ボランティア活動などに携わる人が集い、より一層地域福祉の機運を高め、「共に安心して暮らせる福祉のまちづくり」の実現を目指し、東近江市社会福祉大会を実施しました。

大会では、社会福祉の増進・向上に多大な貢献をされた個人・団体等を表彰し、その功績を称えるとともに、多額の浄財を寄附、または募金いただいた個人・企業・団体等に対しては感謝状の贈呈を行い、地域貢献に対する意識の啓発に努めました。

また、新たに募金百貨店として協力くださる事業所と合同調印式を開催し、事業所の周知と募金百貨店プロジェクトの啓発を行いました。

◇被表彰者選考委員会 令和2年9月2日(水)

◇東近江市社会福祉大会の開催

日 時：令和2年10月17日(土) 10:00～

場 所：東近江市立蒲生コミュニティセンター

参加者：約100名

〈式典〉

- ・東近江市共同募金委員会長感謝 12件(1名・11団体)
- ・東近江市社協会長表彰 39件(33名・6団体)
- ・東近江市社協会長感謝 17件(11名・6団体)



社会福祉大会の様子



募金百貨店プロジェクト合同調印式の様子

【評価と課題】

地域福祉に携わる方が集う場として、地域福祉向上の機運を高めることにつながっています。また、表彰状・感謝場贈呈式や募金百貨店合同調印式を行うことで、地域貢献の意識の醸成にもつながっています。

令和2年度は新型コロナウイルスの影響で規模を縮小して開催しましたが、今後も途切れることなく事業継続していく必要があると考えます。

2. 福祉共育の推進〈地域福祉課〉

地域のよいところを発見したり課題について考えるなど、福祉や地域づくりについて学ぶ機会をつくり、子どもから大人まで地域に暮らす住民同士が共に育ち合う福祉共育をすすめました。

◇福祉共育

学校・自治会等：のべ 75ヶ所 (令和元年度：95ヶ所)

相談・問い合わせ・コーディネート：124件 (令和元年度：181件)



船岡中学校
車いす体験



五個荘小学校
手話講座



能登川南小学校
点字体験

◇社会福祉士現場実習の受け入れ

学校・学部・学年名	コーディネート内容
龍谷大学 社会学部 現代福祉学科 3 回生 (受け入れ人数:1 人)	相談対応・事前訪問・実習対応・日程調整 打合せ・オリエンテーション・実習計画作成 実習受け入れ(23 日間)
びわこ学院大学 3 回生 (受け入れ人数:2 人)	相談対応・事前訪問・実習対応・日程調整 打合せ・オリエンテーション・実習計画作成 実習受け入れ(10 日間)
大谷大学 3 回生(受け入れ人数:1 人)	相談対応・事前訪問・実習対応・日程調整・打ち 合わせ・オリエンテーション・次週計画作成 実習受け入れ(23 日間)

3. 住民懇談会の開催<地域福祉課>

自治会や地区など、自分の暮らす地域について語り合い、これからの地域づくりをカタチにしていくための場を、地区社協などと協働して開催しました。

また、多分野の人や団体、福祉事業所などにも参加いただき、地域で活動されている住民が話し合うことを通して、互いがつながり合うきっかけになりました。

今年度は、コロナ禍において、懇談会を中止する地区が多くありました。

地区	事業・内容	対象	人数
永源寺	永源寺みらい会議	各種団体(21 団体)	57 人
五個荘	自治会福祉推進連絡会(地区社協共催)	中止となり、文書で助成金等案内	—
	福祉委員研修会(年 2 回 7 月・11 月) (地区社協主催)	自治会長、福祉委員、民生委員・ 児童委員、地区社協理事	173 人
湖東	福祉懇談会(地区社協共催)	中止となり、文書で活動支援の資料を送付	—



【永源寺地区】永源寺みらい会議



【五個荘地区】福祉委員研修会

4. 中学生懇談会の開催<地域福祉課>

子どもたちがまちづくりについて話し合う場をつくり、近い将来を担う中学生らの意見を反映した地域福祉活動を展開し、大人になっても住み続けたいまちづくりにつなげていくため、毎年開催をしてきましたが、コロナ禍のため今年度は中止となりました。

5. 米寿記念写真展<地域福祉課>

長寿を祝い、年長者を敬う心を育むことを目的に、米寿を迎えられた人の写真を

撮影、掲額しました。コロナ禍において、高齢者の入所施設や通所施設での撮影ができない期間が続きましたが、掲額には何とか間に合った状況でした。また、年々撮影を申し込まれる人数が減少し、地区で1名しか応募がなく、1名の掲額となった地区もありました。今後、掲額の方法なども検討が必要となっています。

◇撮影・掲額・贈呈

93名（令和元年度 126名）
 平田／3名 市辺／3名 玉緒／7名 御園／8名
 建部／5名 中野／5名 八日市／8名 南部／1名
 永源寺／14名 五個荘／10名 愛東／1名 湖東／5名
 能登川／17名 蒲生／6名



米寿記念写真展
ウエルネス八日市

目標④ みんなが輝く場や機会づくり ～『得意』『好き』を持ち寄って 東近江 115,000^ワ笑ット～

1. ボランティア活動の支援＜地域福祉課＞

住民が気軽にボランティア活動へ参加できる取り組みを進めるとともに、その活動を支援しました。

- ・ボランティア活動への参加促進と活動支援
- ・ボランティアの活動調整と活動支援
- ・ボランティア情報の収集と発信
- ・ボランティアグループへの活動助成（赤い羽根共同募金）

25グループ 430,100円

- ・企業との連携社会貢献活動の推進

【ボランティア登録・把握数】

	団体				個人	
	登録グループ	人数	把握グループ	人数	個人登録	個人把握
八日市	37	505	3	72	6	0
永源寺	6	93	0	0	0	0
五個荘	9	114	0	9	9	0
愛東	10	207	0	0	0	0
湖東	11	112	0	1	1	0
能登川	21	240	6	11	0	0
蒲生	13	167	0	0	0	0
	107	1,438	9	93	16	0

【ボランティア保険加入数】

	活動保険				行事保険	
	件数	内 天災	人数	内 天災	件数	人数
八日市	51	7	1,736	699	18	1,587
永源寺	3	0	42	0	1	20
五個荘	11	3	251	129	11	476

愛東	7	0	63	0	0	0
湖東	11	3	265	33	0	0
能登川	30	2	399	3	12	963
蒲生	9	0	208	0	3	202
	122	15	2,964	864	45	3,248

【ボランティア相談・問い合わせ件数】

地区	件数	地区	件数
平田	8件	永源寺	11件
市辺	11件	五個荘	85件
玉緒	4件	愛東	16件
御園	16件	湖東	29件
建部	4件	能登川	283件
中野	70件	蒲生	75件
八日市	23件	市	76件
南部	6件		
	合計		717件

【内訳】

①ボランティアをしたい(新規活動希望)

	件数
個人	70
ボランティアグループ	7
合計	77

②ボランティアしてほしい(依頼)
演芸、話し相手、移送など

	件数
個人	54
ボランティアグループ	17
自治会	82
サロン	75
施設	46
学校	4
団体	10
行政	14
その他	15
合計	317

③ボランティア活動に関する相談
(現在、活動中の内容や保険について)

	件数
個人	29
ボランティアグループ	131
自治会	20
サロン	125
施設	3
学校	3
団体	25
行政	3
その他	7
合計	346

2. ボランティアセンターの運営＜地域福祉課＞

ボランティア活動の活性化やボランティアの裾野が広がるよう、地域住民や企業・団体・関係機関等とともに住民参画・協働により活動を推進しました。

◎東近江市のボランティア推進を考える会 2回

東近江市のボランティア活動の裾野が広がるよう、ボランティアや地域住民、関係団体等とともに情報交換・協議できる場として開催しました。

日 時	内 容	人数
令和2年9月29日(火) 13:30~15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア川柳作品選考 ・グループ懇談 ・ボランティア川柳作品の展示場所、啓発活動について案出し ・ボランティア活動の機会や自分にできることを活かせる機会づくりの提案 	10人
令和3年2月18日(木) 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ懇談 コロナ禍で工夫されているボランティア活動の推進や取り組みの事例紹介 講師 京都光華女子大学 准教授 南 多恵子氏 グループ懇談 ・ボランティア川柳作品から感じること・コロナ禍で活動者や何かしたい人が活動しやすい地域の雰囲気づくりや活動の後押しについて具体的にどんなことができるか ・今、関心を持ったり、参加してみようと思える活動について案出し 	11人

◎ボランティア推進を考える会 プロジェクト進捗状況

ボランティアのハードルが高いことが課題として挙がりました。そのため、ボランティアの魅力や楽しさを発信し、ボランティアのイメージを変える・ハードルを下げる具体策として2つのプロジェクトに分かれ企画・実行しました。

①ボランティア川柳&パワーワードチーム

◇ボランティア川柳&パワーワード啓発活動

- ・ボランティア川柳作品の展示、住民投票
- ・展示期間 令和2年10月31日～11月30日
- ・展示場所

八日市文化芸術会館、福祉センターハートピア、永源寺コミュニティセンター、てんびんの里文化学習センター、愛東コミュニティセンター、湖東コミュニティセンター、能登川図書館、蒲生コミュニティセンター

◇ボランティア川柳&パワーワードプロジェクト

(令和2年12月14日 / 参加者4人)

- ・ボランティア川柳作品の発信方法について

②ボラなび(フローチャート)チーム

日常の場所で、気軽に楽しみながらボランティアに触れ、ボランティアをはじめてみたい!と思うきっかけづくりとして作成。公共機関等、市内設置。また、ボランティア川柳の展示会場に設置しました。

【成果】

- ・コロナ禍において活動者や何かしたい人が活動する機会が減っている中、活動の場を作ったり、後押しする取り組みを考える会のメンバーと話し合い、令和3

年度に具体的に進めていく方向性が見出すことができました。
 応募いただいたボランティア川柳の作品展示と住民投票を行い、市内でさらにボ
 ランティアの魅力を発信することができました。



◎移送ボランティア輪和の活動支援 月1回 相談対応・活動調整 他

高齢者や障がいのある方を対象としたボランティアによる移送活動を支援しまし
 た。

- ・対象者 14人
- ・定例会 12回(月1回開催)

◎手作りマスクと元気を届けようプロジェクト

コロナ禍においてマスクが不足する中、マスク作成のボランティアやメッセ
 ージカード作成のボランティアを募り、一人暮らし高齢等に配布をしました。緊急事態
 宣言の期間、人と人が出会えない中、温かい気持ちのつながりが生まれることを目
 的に実施。また、メッセージカードのポスターを作成し、多くの方に温かいメッセ
 ージを見てもらえるように、ホームページ（ボラセン）にアップしました。

- ・ボランティア募集期間 4月～7月
- ・周知方法 市内スーパーや商店にチラシを設置
- ・ボランティア数 約200人
- ・マスク・メッセージ作成数 約3,000枚
- ・配布先 市内見守り支援事業の対象者や一人暮らし高齢者
 生活支援サポーターやその利用者
 特例貸付相談者、地域福祉権利擁護利用者、びわ
 こ学院大学の一人暮らしの学生 等
- ・ポスター掲示 65カ所（公共機関やスーパー等）

【成果】

これまでボランティアしたことがなかった人が、参加する機会となった。市社協を
 知らない方にも、市社協のことを知ってもらい、つながることが出来ました。



3. 子どもへの学習支援＜地域福祉課＞

貧困の連鎖を断ち切るために、生活困窮世帯の中学・高校生へ、安心して過ごせる居場所の提供や季節行事等で学力や生活体験、社会性を身に着けること等を一体的に実施してきました。

今年度はコロナウイルス感染症拡大により、学校が休校の間、開催できない期間がありました。その間には、各世帯へ電話をし、子どもたちの様子の確認、勉強面のフォローをし、また保護者にはコロナの影響による減収などの家計の相談に対応し、必要な支援につなげました。学校の再開と合わせ、市福祉総合支援課や市学校教育課と打ち合わせを重ね、コロナウイルス感染症対策を徹底し、6月から学習支援を再開しました。

・関係機関との検討会議	2回 (9/10、2/25)
・大学生ボランティアスタッフミーティング	2回 (12/7、1/20)
・関係機関とのケース共有会議への出席	6回
・今年度新しく参加につながったケース	13件

◇会場参加状況 () 内、令和元年度

会場	対象中学生・高校生		学生ボランティア		開催回数
	登録数	延べ人数	登録数	延べ人数	
八日市	22(21) 人	347(530) 人	10(9) 人	127(111) 人	42(44) 回
五個荘	8(7) 人	123(136) 人	4(2) 人	54(28) 人	38(42) 回
南部	24(20) 人	332(350) 人	7(6) 人	44(37) 人	39(44) 回
冬休み特別講座		18(52) 人		9(10) 人	3(5) 回

◇生活力を高める取り組み

内容	日程	参加児童数	ボランティア数
卒業パーティー レクリエーション等	五個荘 3/23(火)	4人	3人
	南部 3/25(木)	10人	3人
	八日市 3/26(金)	8人	9人

【成果と課題】

- ・子どもたち一人ひとりの努力を応援しながら、問題が解ける自信をつけ、自身の学力よりも上の高校に挑戦するなど自分たちで目標を持って取り組むことができました。受験生6名は、それぞれが自身の成績より一歩高い高校・大学にチャレンジし合格することができました。
- ・高校進学による環境の変化、そこにコロナウイルスにより新しい生活が強いられることになり、加えて仕事が減ったことによる減収などから家計が厳しくなる世帯もありましたが、電話や訪問により、子どもたちや世帯への支援を行いました。
- ・高校生への支援を充実させるため、高校との連携を図ることに力を入れました。学習面や世帯状況を情報共有し、一緒に参加児童の支援方針を考えることができました。

- ・コロナ禍において、子どもたち自身の経験の場となる、会場合同バーベキュー等が実施できませんでしたが、卒業パーティーは、できる形で子どもたち自身がやりたいことを企画し、大学生が中心となって開催することができました。
- ・登録児童数が増え、また高校生支援が本格化してきたなか、ボランティアの充実を図るため、大学生ボランティアに加え、社会人ボランティアの募集を行い、3名の参加につながりました。大学生とは違った関わりにより、子どもたちへの支援の幅が広がっています。
- ・高校では、学習内容が難しくなったり専門分野の学習が始まったことで、基礎学力が低い子どもたちにとって、勉強についていけず、モチベーションが下がってしまう状況が見えてきました。高校生への学習面の支援について、検討が必要です。
- ・学習支援への参加が続かず、保護者との連絡が取れない世帯が増加しています。参加しない、できない状況の把握が難しく、学校やスクールソーシャルワーカーと連携し対応を検討する必要があります。また、その児童にとって学習支援が適切な支援かを見極めていく必要があります。
- ・外国籍の子どもたちの中には、日本語の読解力が低い子どもが多く、また基礎学力（掛け算など）が習得できていない子どももいます。また、その子の課題が言葉の問題なのか、発達に課題があるのか、文化・慣習によるものかわからず、支援の手立てを考えることが難しい状況があります。

4. 障がい児サマーホリデー事業の実施<地域福祉課>

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年のサマーホリデー事業を中止としました。しかし、学校の休校や地域の行事の多くが中止され、また新しい生活様式の中、子どもたちが少しでもストレスが発散でき、保護者も不安や悩み事を話せる場を作るため、夏休み期間中に、市内一会場で、親子で参加できる代替え事業を5日間開催しました

◇代替え事業「親子で過ごそう」

場所 湖東コミュニティセンター 別館

時間 午前の部 10:00～12:00

午後の部 13:30～15:30

内容 コーナー遊び(工作、ボウリング遊び、魚釣り遊び、映画鑑賞等)

保護者懇談会

日程	午前の部 参加人数	午後の部 参加人数	ボランティア
令和2年8月6日(木)	8人	8人	17人
令和2年8月7日(金)	4人	8人	13人
令和2年8月11日(火)	8人	6人	16人
令和2年8月12日(木)	4人	7人	10人
合計	24人	29人	56人

・参加登録児童 20人

登録児童内訳 平田 1人 市辺 1人 御園 5人 八日市 2人

南部 1人 湖東 1人 能登川 4人 蒲生 5人

参加者のべ 児童53人 兄弟児 13人 保護者 57人 562人

- ・ボランティアのべ 27人
- ・サマーの会打合せ会議 5回
- ・指導員リーダー会議打合せ会議 2回



5. 当事者がお互いにつながる場づくりの支援<地域福祉課>

地区名	組織・団体	内容
市	ほっとサロンひなた	相談対応等
	シニアグループ 五友会	相談対応等
八日市8地区	スプリングホリデー(5日)	活動支援(運営相談、ボランティア募集等)
五個荘	あしあとの会	障がい児親子サロン 参加ボランティアの調整

6. シニア世代の仲間づくり講座の開催<地域福祉課>

シニア世代へ仲間づくりのきっかけとなる場を提供し、地域の活動等に関心を持てる機会をつくりました。

・全5回 参加者：8人(延：35人)

令和元年度 参加者：8人(延：10人)

回数	日時	内容	人数
1	令和3年2月16日(火)	・自己紹介 ・ニュースポーツ	7人
2	令和3年2月26日(金)	・木工で作品を作ろう	7人
3	令和3年3月2日(火)	・先輩シニアの活動紹介	7人
4	令和3年3月9日(火)	・グラウンドゴルフを楽しもう	6人
5	令和3年3月16日(火)	・今後に向けて語り合しましょう	8人

※ハートピアで実施。



7. 児童センターの運営<福祉センター>

乳幼児の親子から小中高校生まで、幅広い年齢の子どもたちが遊べる環境を整え、遊びの場を提供し、遊びの指導を行い、仲間づくりや健やかに育ちあう安心安全な居場所づくりを行いました。またおもちゃの貸出等を通して子育てを支援し各種相談にも応じました。

事業名	開催回数・件数	参加者延人数
遊びを通した日常的なかかわりの中での児童や保護者からの相談	42 件(59 件)	—
自由来館(遊びの提供、遊びの指導)	—	4,482 人(8,718 人)
おりがみ教室	2 回(2 回)	19 人(59 人)
陶芸教室	2 回(1 回)	12 人(19 人)
サイエンスクラブ	1 回(2 回)	5 人(49 人)
(新規)むかし体験教室	1 回	8 人
夏休み小学生こども居場所づくり	10 回(3 回)	134 人(82 人)
児童センターだより発行	2 回(1 回)	—
おもちゃの貸出	25 件(84 件)	—

()内 R 元年度

8. 母子・父子福祉センターの運営<福祉センター>

ひとり親家庭、寡婦の方の自立と生活の安定、向上を図るため、イベントや講座の開催を通じて、交流の場を提供し、困りごとや各種の相談にも応じました。

- ・母子・父子および寡婦の家庭生活の自立と生活の安定を図る各種事業
- ・教室、イベント等の開催

事業名	開催回数・件数	参加者延人数
(新規)親子 DIY 教室	1 回	6 人
(新規)絵手紙教室	3 回	13 人
(新規)就労支援セミナー	1 回	3 人
(新規)お仕事支援相談会	2 回	2 人
(新規)ライフプラン・マネープラン相談会	2 回	2 人
(新規)無料弁護士相談	1 回	3 人
受付対応、講座等の関わりの中での相談	103 件(98 件)	

()内 R 元年度

9. 老人福祉センターの運営<福祉センター>

高齢者の健康増進や教養の向上、生きがいつくり、交流の場を提供するため、仲間づくりの場、居場所づくりとして講座を開催し、困りごとや各種の相談にも応じました。

事業名	開催回数	参加者延人数
自由来館(囲碁)	41 回(46 回)	174 人(367 人)
サークル活動の場所提供	248 回(96 回)	2,527 人(1,292 人)
健康体操教室	12 回(3 回)	171 人(21 人)

陶芸教室	3回(2回)	19人(8人)
手芸教室	2回(2回)	14人(24人)
(新規)安心スマホ講座	2回	20人

()内R元年度



児童センター 夏休み
こども居場所づくり



母子父子福祉センター
親子DIY教室



老人福祉センター
安心スマホ講座

10. S&S(スマイル アンド スタンド)＜相談支援課＞

さまざまな理由で就労や生活のしづらさを抱えておられる方や社会に出るきっかけをさがしておられる方に、居場所や社会参加の場を提供しました。住民や企業と連携し、多様なプログラムを準備し、活動を通して参加者が自信をもち、自分に合った働き方がみつけれられるよう支援しました。

- ・S&S 参加者実数 8人
- ・活動状況 10回

プログラム	回数	延べ参加者数
ワンペアレントサポート 食糧仕分け	7	9人
赤い羽根共同募金 資材仕分け	1	7人
FoodDay25 食糧仕分け	2	6人
合計	10	22人

◇企業での活動 (ヴァージエシムラ 箱折作業) 2人
参加者実数2人 (通年 1人 短期 1人)

目標⑤ 東近江の魅力を再発見と誇りづくり ～やっばりええやん 東近江～

1. 広報誌『ひがしおうみし社協だより』の発行・ホームページの運営

『場所や活動』、『風土や人』など、地域の福祉力や助け合いにつながる東近江のさまざまな魅力や情報を掲載し、ホームページでは常に新しい情報を発信しました。

広報誌名	発行回数／部数／配布方法		
ひがしおうみし社協だより	4回	30,750部 (31,800部)	新聞折込、窓口設置、個別郵便

地域の人や活動等、身近な記事を掲載した広報誌の発行を行いました。また、タイムリーな情報を常に発信できるホームページの作成に取り組みました。

◇ボランティアつうしん・つながり通信の発行

コロナ禍において、地域の活動が休止されるところが多く、再開に向けてどのように活動されているか悩まれているところが多い中、工夫して活動されている事例

や見守り活動に活用してもらえよう通信を発行しました。

広報名	発行月	部数	配布方法
ボランティアつうしん つながり通信	9月・10月・12月	各月 1,107部	コミセン、図書館等の施設への配置、各種会議

2. SNS(Facebook)を活用した情報収集・発信

Facebook を活用し、社協と市民、さまざまな団体や企業、幅広い年代層がそれぞれつながり、東近江の魅力や旬な話題を発信・共有する機会をつくりました。

月	件数	内容
4月	8件	DS ゆうあい/DS なごみ/シニア世代仲間づくり講座 HH なごみ/上二俣町サロン/布マスク作りポラ募集
5月	10件	うちで過ごそう応援PJ/DS ゆうあい/能登川事務所移転 hhせせらぎ/小川良(株)寄附
6月	7件	DS ちやがゆの郷/とび太シール/ワンペアレントPJ フェイスシールド作製/びわこ学院大学寄附/おりづる
7月	9件	学習支援/DS ちやがゆの郷/DS あさひの/八日市日赤/DS じゅぴあ 上二俣町サロン/高野ふれあいサロン/山上ふれあいサロン/
8月	4件	DS ゆうあい/古民家カフェ モクレン/DS じゅぴあ/DS ハートピア
9月	6件	DS ゆうあい/米寿記念写真展/DS ハートピア/永源寺赤十字奉仕団 ボランティアつうしん・つながり通信/手作りマスクと元気を届けようPJ
10月	6件	永源寺事務所/川柳PJ・集いいね 東近江市社会福祉大会/DS ハートピア
11月	11件	湖東いこいこ広場/福祉センター事業/中野地区もろて～な市 DS ゆうあい/hhゆうあい/DS ちやがゆの郷/FoodDay25/
12月	9件	DS じゅぴあ/募金箱設置店紹介/hhせせらぎ/DS ハートピア DS ゆうあい/京セラ株式会社募金/ボランティアつうしん・つながり通信
1月	4件	シニア世代仲間づくり講座/DS じゅぴあ/DS ゆうあい 藤野商事株式会社募金/
2月	2件	DS ハートピア/ボランティアつうしん・つながり通信
3月	3件	センター事業/DS ちやがゆの郷/いきいき健康体操助成
	79件 (59件)	

3. 地域のお宝の発見・発信＜地域福祉課＞

気軽に集まれるゆるい場(居場所)が人づくりや見守りにつながっていることに目を向け、趣味の活動や仲間同士の集まりなど、「地域のお宝」を発見し発信しました。

◇「集いいね」の募集、感謝状贈呈

- ・「集いいね」を図書館や市役所、アピア等の市内各施設、商店に掲示。
- ・「集いいねコメントカード」へ「いいね」と感じた集いの場へ投票を実施。

- ・11月上旬～11月下旬まで展示・投票を実施し、最も「いいね」の多い集いの場を「集いいね大賞」として、フラッグを贈呈しました。

◇「集いいね」の冊子作成

【「集いいね」登録数】

地区	令和2年度 登録件数	合計団体数
平田	1 団体	7 団体
市辺	1 団体	4 団体
玉緒	1 団体	8 団体
御園	0 団体	11 団体
建部	2 団体	7 団体
中野	7 団体	21 団体
八日市	2 団体	8 団体
南部	0 団体	3 団体
永源寺	4 団体	8 団体
五個荘	0 団体	8 団体
愛東	2 団体	5 団体
湖東	1 団体	8 団体
能登川	2 団体	10 団体
蒲生	1 団体	15 団体
市域	1 団体	6 団体
		129 団体



集いいねフラッグ贈呈
市辺地区 えんかクラブ



集いいね展示(永源寺コミセン)

【成果】

集いの場を見える化する取り組みを進めたことで、その魅力や、人と人とのつながりづくりの大事さを発信することができました。この取り組みが第2層協議体（各地区）へ拡がり、住民自身が自分たちの暮らしと今あるものを見つめ直し、宝物として発信する動きにつながっています。

目標⑥ 地域活動を支えるためのサポート

～とことん14地区にこだわり、地域づくりをすすめます！～

1. 地区の地域分析＜地域福祉課＞

地域の特性に応じた地域活動を進めるために、地区担当ワーカーが各地区の課題や資源、住民の思いやニーズを把握するなど、地域の特性を分析し、地区に応じたふくしのまちづくりをすすめました。

2. 地区社会福祉協議会の活動支援と連携＜総務課・地域福祉課＞

地区の福祉向上を目的に設けられている地区社会福祉協議会の活動を支援しま

した。また、住民による福祉活動が進展するよう、地区社会福祉協議会と連携協働し、体制づくりや話し合いの場づくりをすすめました。

◇地区社協と連携と活動支援

地区名	事業・活動名	ワーカーの関り・内容
市	地区社協パワーアッププロジェクト 14 地区社協交流会	プロジェクトの開催、相談対応、資料準備、打合せ
平田	会議：役員会、運営委員会 事業：地区社協助成金、見守り支援	会議出席、地区社協の役割を説明 助成金相談対応 事業、運営相談対応
市辺	事業：地区社協助成金 給食ボランティア交流会 福祉協力員会議	助成金相談対応、当日参加協力
玉緒	会議：役員会	打合せ、事業相談対応
	事業：地区社協助成金	助成金相談対応
	歳末たすけあい事業	当日参加協力
御園	会議：事務局会議、理事会、理事総会	打合せ、企画相談対応、資料準備
	事業：地区社協助成金、見守り支援、座談会「よりあい」、みその井戸端喫茶	助成金相談対応、打合せ、企画相談対応、スタッフ会議
	みその井戸端喫茶サロン交流会	打合せ、企画相談対応、資料準備 当日参加協力
建部	事業：サロン交流会、見守り支援	事業相談対応、資料準備、交流会参加
中野	会議：常任理事会、理事会、総会、事務局会議、なかの福祉のまちづくり座談会	企画相談対応、活動調整、事前打合せ 企画相談対応、資料準備
	事業：見守り支援、地区社協助成金 広報「かけはし」発行、地区ボランティアセンター、なかのよいまち推進会議、おすそ分けのしくみづくり、サロンボランティア喫茶	助成金相談対応、事業相談対応 相談対応、資料準備
八日市	会議：常任理事会、四役会、広報委員会、事務局打合せ	事業相談対応
	事業：見守り支援、地区社協助成金	助成金相談対応
南部	会議：総会、常任理事会	事業相談対応
	事業：地区社協助成、見守り支援、障がい者の福祉を高めるつどい	事業相談対応、助成金相談対応
永源寺	会議：総会、常任理事会、三役・事務局会議 各部会(事業企画、見守り、広報編集、えんがわ喫茶)	事業相談対応
	事業：えんがわ喫茶、地区社協助成金 広報発行	助成金相談対応、事業相談対応 広報校正
	地域を知ろう、みんなのふる里祭り、歳末おせち・ゆうあい訪問 居場所づくり交流会(コロナウイルス感染拡大防止のため中止)	事業相談対応、資料作成、運営相談対応

内容	<p>○第2回プロジェクト会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区社協の役割や機能をまとめた「地区社協のてびき(案)」説明 ・グループ懇談「地区社協の組織体制について」 <p>地区の現状や課題を把握するためには、どんな組織体制だったらいいか 運営のあり方を話し合えるにはどんな組織体制だったらいいか 話し合いを活動につなげるためにはどんな組織体制だったらいいか 担い手を増やしていくためにはどんな組織体制だったらいいか</p> <p>○第3回プロジェクト会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地区社協のてびき(案)」説明 ・グループ懇談 <p>「地区社協のてびき(案)の検討</p> <p>～地区社協の運営や活動を考えていくために～</p> <p>これまで話してきた思いや意見が盛り込まれているか 地域住民に伝えていけるものになっているか 今後の地区社協を考えていく上で活用できるものになっているか 他に盛り込みたいことはあるか</p> <p>○第4回プロジェクト会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地区社協のてびき(案)」の修正点について説明 ・グループ懇談 <p>「地区社協のてびき(案)の最終確認</p> <p>～てびきを活用した地区社協の運営を考える～</p> <p>これまで話してきた思いや意見が盛り込まれているか 自分たちの言葉で地域住民に伝えていけるものになっているか 今後の地区社協を考えていく上で活用できるものになっているか 他に盛り込みたいことはあるか</p> <p>※第1回は、令和2年度の2月27日(木)に開催。</p>
----	--

【成果】

- ・地区社協の役割や目的を改めて共有し、これからの地区社協のあり方を検討して共通認識をもつことができました。
- ・地区社協の役割を達成するための組織体制について検討し、共有することができました。
- ・地区社協が地区の福祉活動の中核を担う存在であることを、各地区社協の代表者と確認することができました。
- ・14地区社協の代表者と共に、今後の地区社協の運営や活動を考えていく際の指針となる「地区社協のてびき」を作成することができました。



4. 地区社会福祉協議会 交流会の開催＜地域福祉課＞

地区社会福祉協議会が交流し、お互いの活動や思い、悩みを共有しながら「地区社協の役割や地区社協だからこそできる地域づくり」について考える機会を設けました。

実施日	令和3年1月18日(金)14:00~16:00
参加人数	43人
参加対象者	市内14地区社協役員・事務局
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○地区社協パワーアッププロジェクトの経過と「地区社協のてびき」について説明 東近江市社協地域福祉課 ○講演「これからの地区社協の役割と活動」 講師 武庫川女子大学 教授 松端 克文 氏 ○グループ別懇談 <ul style="list-style-type: none"> ・「地区社協のてびき」の感想 ・各地区社協の活動や運営についての情報交換

【成果】

地区社協パワーアッププロジェクトで作成した「地区社協のてびき」の説明を行い、プロジェクトメンバー以外に広く周知し、地区社協について地域住民等に伝えることや、地区社協の強化をしていくための話し合いのきっかけとなりました。



5. 民生委員児童委員協議会との連携＜地域福祉課＞

住民に最も身近な支援者である民生委員・児童委員との連携により、困りごとを抱える方の発見や地域生活を支える支援、また地域ぐるみでの見守りや助け合いの活動などをすすめました。

地区名	事業・活動名	ワーカーの関り・内容
市域	事務局担当 総会(書面評決)・理事会・三役会 会長・副会長研修、情報交換会 新任フォローアップ研修 各部会:障がい児者、高齢、児童 委員会:総務、広報、主任児童委員	会議運営、事業・運営・研修先調整相談対応、定例会資料準備、当日参加協力、他事務局業務
市辺	市辺地区民児協合同研修	研修内容相談対応
御園	みそのちびっこ	事業・運営相談対応、当日参加協力
中野	介護保険に関する研修会、広報紙	事業・運営相談対応、 研修調整対応、当日参加協力

永源寺	幼保・小中学校訪問、 市内福祉施設見学、 ゆうあいの家奉仕作業	事業・運営相談対応、調整 当日参加協力
愛東	研修	研修調整対応、当日参加協力
湖東	研修	研修調整対応、当日参加協力
能登川	県外研修	研修先調整、同行
蒲生	歳末訪問見守り	事業・運営相談対応
各地区	定例会 特別会費、共同募金協力依頼 歳末激励金配布助成金事業	会議準備・出席、相談対応、赤ちゃんにこここ 訪問事業など)、事前会議・代議員会

6. まちづくり協議会との連携＜地域福祉課＞

各地区で広くまちづくりに取り組まれているまちづくり協議会と連携し、地区社会福祉協議会をはじめとする地区内の関係団体とヨコのつながりをつくり、福祉のまちづくりをすすめました。

地区	事業・活動名	ワーカーの関り・内容
平田	まちづくり協議会	事業・運営相談対応
御園	まちづくり協議会	地区ボラセンの説明・相談
中野	おすそわけプロジェクト	相談対応、資料準備、当日参加協力
	子どもの居場所づくりプロジェクト	相談対応、当日参加協力
	広報「みんなでつくるなかのよいまち」	取材、記事案作成
八日市	八日市つながりプロジェクト	事業・運営相談対応、会議参加
永源寺	みんなのふるさと祭り ふるさと便プロジェクト	当日参加協力、相談対応
愛東	愛東地区まちづくり協議会 福祉プロジェクト	企画相談対応、資料作成、会議参加
湖東	福祉部会、湖東の支え合いを考えるプロジェクト	事業・運営相談対応

7. 「地区住民福祉活動計画」の推進支援＜地域福祉課＞

地区担当ワーカーが市内14地区で地区住民福祉活動計画の推進のために設けられている、話し合いの場などに参画し、計画が具体的な活動として取り組まれるよう支援しました。

地区名	事業・活動名	ワーカーの関り・内容
平田	平田ふくしのまちプラン推進会議	運営等相談対応、資料準備、会議参加、打合せ
	カフェゆきのやまとふれあい広場	運営等相談対応
市辺	市辺地区住民福祉活動計画推進会議	運営等相談対応、資料準備、打合せ、会議参加
	よってみて Café こぼし	運営等相談対応、資料準備、会議参加
	障がいのある子をもつ保護者との交流会	事業の企画・実施、資料準備、広報

玉緒	玉緒地区住民福祉活動計画推進会議	運営等相談対応、資料準備、打合せ、会議参加
御園	御園地区住民福祉推進会議	運営等相談対応、資料準備、打合せ、会議参加
建部	たてべの福祉を語る場	運営等相談対応、資料準備、会議参加
中野	なかのよいまち推進会議	運営等相談対応、資料準備、活動調整、会議参加
	おすそわけプロジェクト	運営等相談対応、資料準備、活動調整、会議参加 もろて～な市開催支援
	もろて～な市	運営等相談対応、資料準備、打合せ、会議参加
	集いの場の発見発信	運営等相談対応、資料準備、打合せ、会議参加
	なかのよいまち大 en 会	運営等相談対応、資料準備、打合せ、会議参加
八日市	八日市つながりプロジェクト	運営等相談対応、資料準備、活動調整、会議参加
	はちのひカフェ	運営等相談対応、資料準備、カフェ参加
南部	南部地区ワーキング会議	運営等相談対応、資料準備、会議参加
	ほっとまちカフェ	運営等相談対応、資料準備、会議参加
永源寺	住めば都プラン推進会議	運営等相談対応、資料準備、会議参加
	婚活プロジェクト	運営等相談対応、資料準備、打合せ、会議参加 反省会
	ふるさと便プロジェクト	運営等相談対応、資料準備、打合せ、会議参加
五個荘	住民福祉会議	運営等相談対応、資料準備、打合せ、会議参加
愛東	愛東まちづくり協議会 福祉プロジェクト	運営等相談対応、資料準備、活動調整、会議参加
	命のバトン推進委員会	運営等相談対応、資料準備、活動調整、会議参加
湖東	湖東の支え合いを考えるプロジェクト	資料準備、会議参加
能登川	能登川地区住民福祉活動計画推進会議	運営等相談対応、資料準備、打ち合わせ、会議参加
蒲生	あかね福祉の会本部役員会	運営等相談対応



【中野地区】
なかのよいまち大 en 会



【御園地区】
御園地区住民福祉推進会議



【八日市地区】
はちのひカフェ

8. 「第2次地域福祉活動計画」のふりかえりと「第3次地域福祉活動計画」の策定に向けて <地域福祉課>

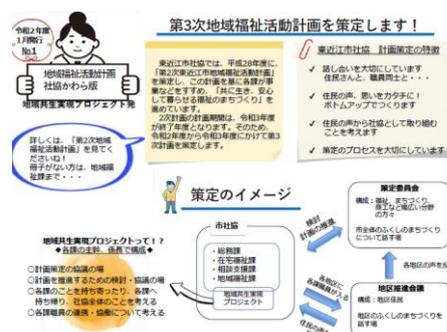
◇地域共生実現プロジェクトの開催

各課、主幹・係長で構成し、第3次地域福祉活動計画の策定に向けて、検討、協議を行ってきました。また、各課においても、第2次地域福祉活動計画について、それぞれの事業のふりかえりを行いました。

日時	内容
令和2年12月11日(金) 9:30~12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次計画策定について ・スケジュールの共有 ・地区住民福祉活動計画の策定について職員の関り等 ・キックオフミーティングについて ・第2次計画のふりかえりについて
令和2年12月29日(月) 13:15~16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次計画策定について ・策定委員について ・住民の声をどのように聞くか 等
令和3年2月19日(金) 13:15~16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・キックオフミーティングについて ・第1回策定委員会に向けて



地域共生実現プロジェクト



職員向けかわら版の発行

◇第1回 第3次東近江市地域福祉活動計画 策定委員会

第3次東近江市地域福祉活動計画の策定に向け、第1回策定委員会を開催しました。策定委員の委嘱、策定のポイントやこれからの策定スケジュール等を策定委員と共有しました。

日時 令和3年3月16日(火) 19:00~21:00

場所 東近江市福祉センターハートピア

内容 委嘱状交付

第2次東近江市地域福祉活動計画策定委員会 内規の説明

委員長・副委員長選出

協議：・地域福祉活動計画について

武庫川女子大学 文学部 心理・社会福祉学科
教授 松端 克文 氏

・第2次東近江市地域福祉活動計画のふりかえり

・第3次東近江市地域福祉活動計画策定の進め方

東近江市社会福祉協議会 地域福祉課

・グループ懇談

「5年後のわたし、5年後の東近江」



9. 専門職同士の連携強化＜地域福祉課＞

医療福祉の専門職が集い、制度やサービスのはざまにある暮らしの困りごとの解決や地域に必要な社会資源などについて話し合う場に参画し、今後の連携強化を行いました。

また、医療福祉の専門職がお互いの専門性を活かし、地域に対してできることを考えるきっかけをつくりました。

地区名	事業・活動名	ワーカーの関り・内容
永源寺	チーム永源寺	会議出席
	輪つなぎ 企画会議	資料作成、打合せ、会議参加
五個荘	てんびん倶楽部	会議進行補助、事業・運営相談 対応、会議出席、日程調整

10. その他 ＜総務課・地域福祉課＞

◇新型コロナウイルス対応緊急支援助成事業

コロナ禍において、様々な地域活動が休止されるなか地域活動の再開への後押しとなるよう休眠預金を活用した事業に取り組みました。

事業・活動名	内容
リモートで活動支援	地域活動においてリモートで実施できるよう貸し出し備品の整備やオンライン研修の企画
地域活動応援BOX 配布数 ・283カ所	地域のサロン活動やボランティア活動において、活用できる感染防止対策の備品、活動のヒントとなる冊子の配布 冊子については、市社協において作成。 ＜感染防止対策の備品＞ 非接触型体温計、手指消毒ディンスペンサー、マスク、アクリルパネル等からの組み合わせ ＜活動のヒントとなる冊子＞ ・地域支え合いのてびき ・フレイル予防の体操 ・フレイル予防食事編 ・チェックリスト ・感染に対す差別解消の啓発 冊子作成については、近江温泉病院の理学療法士やぴーまん食楽部の管理栄養士に相談、監修をしていただいた

◇コロナ禍における他団体との協働

主催者	事業名・内容	コーディネート
がもう夢工房	【ワンペアレントサポートプロジェクト】 ひとり親家庭や外国籍の方、単身者で介護をされている方を対象に食料を支援 毎月1回開催(6月よりスタート)	対象者や関係機関への周知、受付、問い合わせ対応、寄附対応等
まちづくりネット	【コロナウイルス感染症に伴う各所への対策、情報共有 WEB 会議】 飲食店や観光に関わる業者の収入が減り、困っておられる状況があり、何かできないか話し合いの場に参画。各団体の状況などを情報共有。 参加団体：商工会、商工会議所、図書館、まちづくり協働課、観光物産課など	会議に参加し、市社協の取り組みやコロナ禍における地域の状況等を伝える。

◇社会福祉法人ネットワーク会議 企画会議（主催：市健康福祉政策課）

市内の社会福祉法人が横のつながりをつくり、連携できる関係づくりを進めていくための企画会議に参画。

- ・企画会議 2回
- ・東近江市福祉法人ネットワーク会議
日時 令和3年2月12日(金) 14:00～16:00
場所 湖東コミュニティセンター 多目的ホール
内容 話題提供 障がい分野 (福)くすのき会 施設長 田井中隆藏氏
高齢者分野 (福)慈照会カルナハウス 施設長 後藤清氏
子ども分野 (福)めぐみ会八日市めぐみ保育園園長 川上信氏

基盤強化計画

1. 民間法人として、独自性に採算性を兼ね併せた法人経営を目指します

<総務課>

(1) 経営組織のガバナンスと財政規律を強化し、役職員が一体となって組織・経営改善を行うとともに、経営計画ロードマップによる、計画的な事業執行と改革に取り組みました。

〈正副会長会議の開催(三役会)〉

	期日	審議事項
第1回三役会	令和2年9月3日	・理事会・評議員会提案事項について
第2回三役会	令和2年12月3日	・理事会・評議員会提案事項について
第3回三役会	令和3年3月5日	・理事会・評議員会提案事項について

〈理事会、評議員会、監事会の開催〉

	期日	審議事項
第1回 理事会	令和2年 6月8日	<p>《議事》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度事業報告について ・令和元年度一般会計決算について ・理事辞任による新理事候補者の推薦について ・評議員選任・解任委員の一部辞任に伴う新委員選任について ・第1回評議員会の招集並びに提案事項について <p>《報告事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度補正予算(第1号)の専決処分について
第2回 理事会	令和2年 6月30日	<p>《議事》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長・副会長の選定について
第3回 理事会	令和2年 9月7日	<p>《議事》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定款の一部変更について ・事務局及び職員に関する規程の一部改正について ・経理規程の一部改正について ・令和2年度補正予算(第3号)について ・第2回評議員会の招集並びに提案事項について <p>《報告事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度事業報告(4～6月)について ・令和2年度補正予算(第2号)の専決処分事項について ・東近江市法人指導監査について
第4回 理事会	令和2年 12月8日	<p>《議事》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児・介護休業及び育児・介護短時間勤務に関する規則の一部改正について ・給与規定の一部改正について ・令和2年度補正予算(第5号)について ・第3回評議員会の招集並びに提案事項について <p>《報告事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度事業報告(7～9月)について ・令和2年度補正予算(第4号)の専決処分事項について
第5回 理事会	令和3年 3月9日	<p>《議事》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度補正予算(第6号)について ・令和3年度事業計画について ・令和3年度一般会計予算について ・第4回評議員会の招集並びに提案事項について ・役員等賠償責任保険契約の締結について <p>《報告事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度事業報告(10～12月)について

第1回 評議員会	令和2年 6月29日	《議事》 ・令和元年度事業報告について ・令和元年度一般会計決算について ・理事辞任による新理事の選任について 《報告事項》 ・令和2年度補正予算(第1号)の専決処分について ・評議員選任・解任委員の一部辞任に伴う新委員選任について 《その他事項》 ・介護事業ロードマップの説明
第2回 評議員会	令和2年 9月18日	《議事》 ・定款の一部変更について ・令和2年度補正予算(第3号)について 《報告事項》 ・令和2年度事業報告(4~6月)について ・令和2年度補正予算(第2号)の専決処分事項について
第3回 評議員会	令和2年 12月23日	《議事》 ・令和2年度補正予算(第5号)について 《報告事項》 ・令和2年度事業報告(7~9月)について ・令和2年度補正予算(第4号)の専決処分事項について
第4回 評議員会	令和3年 3月23日	《議事》 ・令和2年度一般会計補正予算(第6号)について ・令和3年度事業計画について ・令和3年度一般会計予算について 《報告事項》 ・令和2年度事業報告(10~12月)について
第1回 監事会	令和2年 5月26日	・令和元年度事業・決算監査
第2回 監事会	令和2年 8月24日	・令和2年度事業・会計第1四半期監査(4月~6月) ・現地監査(せせらぎ)
第3回 監事会	令和2年 11月24日	・令和2年度事業・会計第2四半期監査(7月~9月)
第4回 監事会	令和3年 2月25日	・令和2年度事業・会計第3四半期監査(10月~12月)
法人指導 監査(市)	令和2年 8月24日	・令和元年度法人運営監査

(2) 事業運営の透明性の向上を図りました。

財務諸表や現況報告書、県や市の補助金等の情報開示を行い、社協会費や共同募金についても、社会福祉法人の財務諸表電子開示システム(ワムネット)や、本会のホームページ、広報誌による情報公開を行いました。

(3) 財務規律を強化しました。

社会福祉法人の会計基準に則り、適正かつ公正な支出管理を実施。

また各答申を踏まえた経営改善策の計画に基づき、財政強化を目指しましたが、会費・共同募金については減額となり、新たな方策を検討します。

(4) 地域福祉活動の自主財源の確保と有効活用に向けて検討しました。

①社協会費

令和2年度から企業や事業者が協力くださる賛助会費、個人の方が協力くださる特別会費という区分を設けました。また、これまで民生委員児童委員の協力を得て、企業等へ依頼の訪問を行っていましたが、令和2年度からは訪問を控え、銀行振込で納入いただくように依頼しました。

また寄附金控除の対象として市から認可いただく、賛助会員の氏名を社協だよりに掲載する等、会員の増加を目指した取り組みを実施しました。

	令和元年度	令和2年度
一般会費	11,646,513 円	11,273,319 円
特別会費	2,909,378 円 (1,638 件)	774,000 円 (612 件)
賛助会費	—	1,141,000 円 (269 件)

【評価と課題】

社協取引業者に協力依頼を行い、新規会員の獲得もできましたが、さらに拡大の必要があります。

会費が寄附金控除の対象であることのアピールや、協力いただいた企業を社協だよりに掲載することで社会貢献されていることをPRするなど、会費に協力いただくことのメリットについても発信し、新規会員の獲得を積極的に促進します。

②共同募金助成金の有効活用

赤い羽根共同募金運動の一層の推進により地域福祉財源の確保に努めるとともに、各団体への助成事業については、共同募金道の趣旨に合った助成事業に転換し、その助成が適正かについて審査委員会による審査を行いました。

【評価と課題】

審査委員会の形式や助成事業の主旨・内容の見直しについて更に検討を行います。

③善意銀行の有効な活用

市民の善意で寄せられる寄附金・物品について、寄附者と受給者のマッチングを図り、柔軟かつ効果的な循環型活用を目指しました。

(5) 「第三者委員会」の活性化

市民や利用者に第三者委員会の一層の周知を行い、苦情解決や虐待防止に努め、事業改善に向け法人として対応を行いました。

委員より業務中の事故が多数報告されていることから、事故を減らす目標設定や具体策を講じるよう助言いただきました。

・第三者委員会の開催

	期日	内容
第1回 第三者委員会	令和2年 9月29日	・令和2年2月1日～令和2年7月31日 苦情(2件)、事故報告(27件)
第2回 第三者委員会	令和3年 2月22日	令和2年8月1日～令和3年1月31日 苦情(3件)・事故報告(32件)

(6) 各部署の連携強化

日常業務の円滑な実施のため課長会議ならびに主幹会議を定期開催し、情報の共有化を図ると共に職員の共通認識を高めました。

- ・課長会議 12回
- ・管理職会議 5回
- ・主幹会議 12回(各課・事務所・事業所へ伝達)
- ・社協改革プロジェクト 7回(業務改善運動「楽リンピック～経営危機脱出大作戦」と内部研修会の開催)

2. 自発性・開発性・柔軟性のある事業活動を構想、実践できる組織を目指し ますく総務課・地域福祉課・相談支援課・在宅福祉課>

- ・地域福祉推進に不可欠な行政とのパートナーシップ向上を図りました。

3. 経営管理の見直し<総務課>

(事業管理や財務管理、人事管理、所轄庁などへの法務業務など)

経営管理について、適正な事業・財政・人事管理ができる組織運営を図り、育成・評価・処遇を一体化した人事考課制度の定着に努めました。

(1) 人事・給与制度の見直し

年功序列型の人事給与制度を見直し、職員の意欲や能力を引き出し、モチベーションを向上させるとともに給料表の改正や昇格、昇給制度の改正を行い、運用を始めました。

(2) 人事考課制度

職員一人ひとりが基本理念・基本目標の達成に向け、8つの職員像を目指し、人事考課制度の定着を図りました。また、次年度からの本格実施に向け、人事考課制度ガイダンスの改正を行いました。なお、考課者、被考課者研修については新型コロナウイルス感染防止により開催できませんでした。

◎8項目の目指すべき職員像

1. 地域や住民との関わりを持ち、信頼関係を築く人。
2. 様々な事柄に興味 関心を持ち、情報の収集や活用を多彩に行う人。
3. 基本理念に基づいて、自ら考え、果敢に挑戦し、責任を持って行動する人。
4. 社会や組織の一員としての自覚を持ち、周囲と協力しながら努力を惜しまず成果を追い求める人。
5. プロフェッショナル意識を持ち、広い視野と深い見識の習得に意欲的な人。
6. 相手の立場に立ち、認め、可能性を信じて誠実に接していく人。
7. 自己管理を怠らず、自らを律し、相手のアドバイスを真摯に受け容れ実践する人。
8. チームワークを重んじ、周囲を巻き込みながらリーダーシップを発揮する人。

◎人事考課 説明会 令和3年2月4日(木) 10:00～、19:00～
令和3年2月5日(金) 13:30～、19:00～

4. 職場体制を整備します<総務課>

(1) 職員研修

職員の資質向上のための必要な研修については、開催が延期され、また集合型研修からWEB研修へ切り替わる中、コロナ禍における研修の在り方を学びました。

(2) 災害に向けた体制作り

災害発生時の職場内の体制を確立するため職員によるプロジェクト会議を設置し、BCPをもとに災害が発生した際の行動マニュアルの作成を進めました。

- ・プロジェクト会議 8回開催
- ・防災計画とのすり合わせ会議 2回開催

(3) よりよい職場環境づくりの推進

すべての職員が、仕事と子育てや介護を両立し、生き生きと働きがいをもって継続勤務できることを目指す一般事業主行動計画により、仕事と生活の調和(ワークライフバランス)を支援するため、雇用環境の充実を図りました。

◎ストレスチェックの実施

職員のストレスの程度を把握し、職員自身のストレスの気づきを促すとともに、職場改善につなげ、働きやすい職場づくりを進めました。

◎特定職員に超過勤務が集中しないよう業務の分散化と各課応援体制の構築

◎働き方改革に伴う時間外勤務の管理および年次有給休暇5日間の完全取得

◎安全衛生委員会の開催

◎健診の要再検査の者への二次検査促し

◎職員の健康管理のひとつの手段として「ノー残業デー」を徹底

◎職員の夏季特別休暇の完全取得および年次有給休暇の取得の推進

◎無期雇用契約の仕組みの運営

◎同一労働同一賃金における非常勤職員への夏季特別休暇の付与および健診補助に向けた就業規則の改正

(4) 新型コロナウイルス感染防止対策に向けた体制整備

新型コロナウイルス感染症に対応するため、分散勤務やマスク着用、消毒、検温等の徹底を行い、感染拡大防止に努めました。

5. 住民の暮らしを丸ごと支える包括的な相談支援を目指します<相談支援課>

複合的かつ多様な課題を抱える相談者を丸ごと受け止め、寄り添った支援ができるよう、住民の持つ力と専門職(事業所等)が協働で、支援の狭間を作らない相談体制づくりを目指しました。

①個別相談において、対応した職員の持つ知識や関係機関とのつながりを活用した対応が行えましたが、職員全体での共有や関係機関間の恒常的なネットワークづくりにまでは至りませんでした。

②民生委員・児童委員や地域住民とのつながりを作り、日常的な見守りが行えるよう取り組みました。

6. 地域福祉推進の一環としての社協らしい在宅福祉サービスを目指します 〈在宅福祉課〉

- (1) 令和元年度に答申された「介護事業のあり方」に示された、地域に必要とされるサービスに取り組む事業所を目指し、必要とされるサービスを見極め、持続可能な事業運営を目指しました。

【取り組み】

- ・四半期ごとに事業の見直しを行い、方向性を確認しました。

【評価】

- ・令和3年度よりデイサービスセンターハートピアを地域密着型に移行する準備を進めました。

- (2) 市内の介護事業所、障がい福祉サービス事業所が集まる場を設けました。

【取り組み】

- ・市内の介護事業所、障がい福祉サービス小規模事業所において、新型コロナウイルス感染症に関する情報が入りにくい現状から新型コロナ感染拡大予防のための研修会や事業所間の同士の情報共有の場を設けました。

(休眠預金を活用した公益活動)

- ・新型コロナウイルス感染症の研修会

令和2年12月14日 参加事業所数35事業所(59名)

- ・小規模事業所で考える新型コロナ感染対策 語り合いの場

令和2年12月2日(水) 7事業所(7人)

令和3年1月20日(水) 7事業所(7人)

令和3年3月24日(水) 7事業所(7人)

【評価】

- ・感染症の研修会では、参加者から「実際にクラスターが起きた施設職員の方から話を聞き、具体的な取り組みについて知ることができよかった。」や「1事業所では取り組めない、東近江全体で考えたい」との感想をいただきました。
- ・語り合いの場では、「現場の話なのでリアルでわかりやすい。現場の話したい事や聞きたいことができる会議でよかった。」「介護事業所、障がい福祉サービス事業所がお互いに知ることができた。」等の意見があり、情報共有の場となりました。

【取り組み】

- ・東近江市内の通所系事業所との協議を行いました。

【評価】

- ・災害時の協力体制づくりとして能登川地域の通所介護、小規模多機能型居宅介護の事業所(9事業所)の管理者等が集まり、協力体制に向けた話し合いを行いました。

令和2年11月20日(金) 災害対応について、今後について

令和3年2月2日(火) 災害対応について

東近江市長寿福祉課と災害体制時の意見交換

今後は、災害対策だけでなく、介護事業所の悩みや研修などの話し合いを行っていきます。

7. 市内 14 の各地区に合わせた、支えあえる地域づくりを目指します

＜地域福祉課＞

市内 14 各地区に地区担当ワーカーを配置し、それぞれの地区における課題や地域資源、地域性などの地域分析のもと、地域住民や専門職、各種団体や企業などと協働し、地域づくりをすすめました。

8. 地域課題に対して、多職種・他機関が協働して解決を図るためのネットワークを構築します＜地域福祉課＞

さまざまな地域課題に対して、市域・地区域・小地域それぞれのエリアに応じて、あらゆる分野の職種・機関がそれぞれの強みを活かし解決を図るよう、協働して取り組むネットワークの構築をすすめました。本年は生活支援体制整備事業で地区域に位置付けられる第 2 層協議体設置について、未設置の地区へ重点的に第一層コーディネーターと地域担当ワーカーが関わり、立ち上げを支援しました。

9. 「地域福祉活動計画」の進捗確認を行い、目標達成に向けて検証を行います＜地域福祉課＞

策定委員をはじめとする様々な立場の方とともに、実践の進捗確認や、課題整理をする場を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、開催を中止しました。地域福祉課の職員で、これまでの地区への働きかけや地域の変化を振り返り、進捗確認を行いました。

10. 施設運営・管理＜総務課＞

市施設（指定管理）・市社協所有施設を運営する上で、広く市民からのニーズに応え、安全安心に利用していただけるよう環境整備を行い、地域に開かれた施設として適切な運営管理を行いました。

(1) 市施設の指定管理・運営（2施設）

◇東近江市福祉センターハートピア

【貸館業務】

総合的な福祉センターとして幅広い層の利用があり、貸館での来館をきっかけとした相談・支援なども行いました。

・年間貸館利用者数 955 件 延べ 9,320 名

【維持管理業務】

来館者の安全確保を最優先に、清掃や施設・設備点検等の日常巡視点検、保守管理および簡易修繕を行い、施設の健全なる保全を図りました。

【自主事業】

小地域福祉活動、相談支援事業、地域福祉権利擁護事業、ボランティアセンター事業、子育て支援事業、福祉図書・福祉関係ビデオの貸出、福祉共育事業、訪問介護事業、通所介護事業

(2) 市社協施設の維持管理・運営（5施設）

- ◎ゆうあいの家
- ◎せせらぎ
- ◎ちやがゆの郷
- ◎かじやの里の新兵衛さん
- ◎デイサービスセンターあさひの

11. 地域における公益的な取り組み

＜総務課・地域福祉課・相談支援課・在宅福祉課＞

地域共生社会の実現に向けて、社会福祉法人の専門性や資源などを活かし、地域課題や地域のニーズに対応する社会貢献活動の推進と他社会福祉法人の社会貢献活動の推進支援を行いました。

(1) 東近江市社協の地域貢献活動

- ・生活困窮者支援
- ・新しい総合事業による介護予防プログラム

(2) 他社会福祉法人の地域貢献活動の支援

- ・社会貢献活動の相談対応・情報提供・マッチング
- ・社会福祉法人ネットワーク会議における企画会議への参画